

# 目 次

1	家庭及び技術・家庭としての研究の視点	1
2	授業研究	1
	【授業研究1】小学校第5学年「めざせ手縫い名人！」におけるルーブリックと説明書を用いた評価の工夫	2
	【授業研究2】小学校第5学年「ミシンで作ろう！オリジナルグッズ」における学習マップとルーブリックを用いた評価の工夫	8
	【授業研究3】中学校第1学年「本や小物の収納に役立つものをつくろう」における生徒一人一人に到達目標を達成させるための評価の工夫	13
	【授業研究4】中学校第1学年「身の回りを整とんするものの設計と製作」における生徒一人一人に到達目標を達成させるための評価と教材・教具の工夫	19
	【授業研究5】中学校第3学年「わたしたちと幼児との触れ合い」における相互評価を取り入れた「生活を工夫し創造する能力」の観点の評価の工夫	25
	【授業研究6】中学校第3学年「幼児の発達と家族のかかわり」における学習シートや評価カードを活用した評価の工夫	31
	【授業研究7】高等学校第2学年 家庭基礎「何をどれだけどのように食べたらいいか」におけるパソコンとワークシートを用いた問題解決的な学習の評価の工夫	37
	【授業研究8】高等学校第1学年 家庭総合「食生活の管理『安全な食生活』」における場面設定を取り入れた題材の指導と評価の工夫	43
3	研究のまとめ	49

## 1 家庭及び技術・家庭としての研究の視点

### (1) 前回の研究について

平成17,18年度の教科に関する研究(家庭及び技術・家庭分科会)では,研究主題を「学びの豊かさを求める家庭及び技術・家庭の授業づくり」と設定した。家庭及び技術・家庭では,「学びの豊かさ」を,「児童生徒が『生活に役立つ』等の学びの意義を実感しながら主体的に学び,知的好奇心に支えられて楽しさや充実感を味わいながら,生活に必要な知識や技術を習得し,実践的な態度を身に付けようとする」ととらえ研究を進めた。研究主題に迫るために「学ぶ意欲を喚起できる題材や指導法の工夫」や「体験と認識をつなぐ振り返りの学習場面の設定や指導法の工夫」等の手立てを講じた。

その結果,児童生徒は学習意欲が高まり,「すぐに役立つ」など学びの意義を感じながら取り組むことができた。そして,満足感,充実感を獲得しながら生活に必要な知識や技術を習得し,実践意欲が高まった姿などが見られ,一定の効果を確認することができたと考えている。一方で,評価結果を教師が次の指導の改善に生かすことや,児童生徒が自分の学びを確認して次の学びにつなげるなどの自己評価力の高まりは十分ではなかった。この課題をとらえ「豊かな学び」を実現する授業を展開するための「学習評価の工夫改善」に着目する。

### (2) 研究の視点

今回の研究では,前回の研究での課題を踏まえ,教科研究主題「豊かな学びをはぐくむ授業の創造」を目指して,特に「学習評価の工夫改善」に焦点を当て研究を進めていく。

前出の研究主題に関する基本的な考え方で述べられていることをまとめると「豊かな学びをはぐくむ」ためには,教師が「わかる授業」「楽しい授業」を創造し,児童生徒が「確かな学力」を身に付けていくことが重要であると示されている。さらに高久氏と無藤氏の「わかる授業」についての考え方を総括すると,「何か」という何を指すかという目標と,「いかに」というそれをどのように学ぶかという学習の方略を「問い」として教師がしっかりもつことの重要性が述べられている。これらの「問い」を明確にするためには,児童生徒の学習状況の見極めと,そこでの教師の主要な手立てについても振り返ることが,豊かな学びをはぐくむ授業を創造していくうえで重要であるとする。

以上のことから「学習評価の工夫改善」について「これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確化するための評価の工夫」を視点として研究を進める。

### (3) 具体的な研究の手立て

「学習評価の工夫改善」について「これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確化するための評価の工夫」を視点として以下の点で工夫・改善を図る。

題材における適切な評価規準の設定と単位時間における到達目標の提示  
評価場面と評価方法の工夫・改善

## 2 授業研究

授業研究にあたっては,各手立てごとに小学校2校,中学校4校,高等学校2校で実践し,各授業研究ごとに分析・考察した。

【授業研究 1】 小学校第 5 学年「めざせ手縫い名人！」におけるルーブリック<sup>注1)</sup>と説明書を用いた評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

ルーブリックや説明書を用いた評価を取り入れて授業研究を行うことで、到達目標の達成や児童の自己評価力の向上を目指す。

題材観

この題材では、針と糸を使って製作する学習を通して、手縫いの製作に関する基礎的な知識と技能を習得するとともに、生活に役立つ物を作り、生かす喜びを味わうことができるようにすることをねらいとしている。

児童の実態について (平成20年 6 月 3 日実施, 第 5 学年 1 組, 41人)

設 問	回 答
これから始まる「針と糸を使う学習」は楽しみですか。	楽しみである 35人 楽しみではない 6人
楽しみではないと答えた人は、なぜそう思ったのですか。	針を使うのが怖い 4人 縫うのは面倒(家で縫い物をしない) 2人
身の回りにある手縫いで製作したものにはどのようなものがありますか。	マスコット人形 20人 手提げ 8人 名前の縫い取り 5人 浴衣 5人 雑巾 3人
今までに手縫いで製作したことがある人は、何を作りましたか。	マスコット人形 7人 手提げ 3人 名前の縫い取り 2人 雑巾 1人
これから針と糸を使って何を作りたいですか。	筆入れ 13人 DSゲーム入れ 9人 マスコット人形 8人 カード入れ 7人 ティッシュケース 3人 財布 1人

アンケートの結果から、本学級の児童は、針と糸を使う学習に対し関心が高いことがわかった。しかし、針を使うことを不安に思ったり、面倒であると感じたりしている児童もみられる。自分でできることを増やし、学校で身に付けた知識や技能を家庭生活で生かせるような指導が必要であると考えた。そこで、児童の感じている不安感を取り除き、技能を習得させ、児童にやる気と自信をもたせるようネームプレートの製作を行う。製作終了後は、全員の作品を集め、学級の一つの作品として掲示し、学んだことを足跡として残し、その後の自分の生活に役立つ小物作りにつなげていきたい。

このように児童が、見通しをもって手縫いの製作に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付けられるように、また、自己評価力が高まるよう学習カードや評価方法を工夫して、学習を進めていく。

注 1) ルーブリック：評価指標，絶対評価のための判断基準表

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

ルーブリックを用いた評価の工夫

児童と一緒にルーブリックを作成し、それを学習カードに示し、参照させながら毎時間評価していく。ルーブリックは、場合によって視点を付け加えていく。

設計図の作成

児童が製作したいと思っている作品の設計図を、「誰が見ても作り方が分かる」ということを意識させ、図と言葉で書くことで学習の見通しをもたせるようにする。

説明書の作成（言語活動の場面の設定）

児童が行った製作活動を他者（自分より年下の子という設定）に教えるということを想定し、児童自身の言葉や図で書いた説明書をつくることで、学んだ知識や技能の振り返りを行う。

(3) 授業の実践

ア 題材名 めざせ手縫い名人！

イ 本題材の目標

布を用いた製作に関心をもち手縫いで製作に取り組もうとしている。小物を製作する楽しさを味わい、生活に生かそうとしている。（家庭生活への関心・意欲・態度）

製作する物やその製作計画について考えたり、工夫したりできる。

（生活を創意工夫する能力）

手縫いによる目的に合った縫い方ができる。小物作りの計画を立て、製作することができる。製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。（生活の技能）

裁縫用具の名前や安全な取り扱い方が分かる。手縫いによる簡単な縫い方が分かる。

（家庭生活についての知識・理解）

ウ 本題材における評価規準 <指導内容(2)イ(3)ア・イ・ウ>

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
(2)ボタンを付けることに関心をもち、ボタンをつけようとしている。		(2)ボタン付けができる。	(2)ボタンの付け方について理解している。
(3)布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作し、活用しようとしている。	(3)布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	(3)布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な技能を身に付けている。	(3)布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な事項について理解している。

エ 指導計画（8時間）

糸と針を使ってオリジナルグッズを作ってみよう・・・8時間(本時はその第3時)

時間	小題材名 ・主な学習活動	ねらい ----- 学習活動における具体の評価規準	評価方法
1	・針と糸になれよう	針と糸など裁縫用具の種類や使い方、安全な取り扱いが分かるようにする。 ----- 関 - 針と糸など裁縫用具の種類や使い方について関心をもっている。 知 - 製作に必要な用具の安全な取り扱いが分かる。	学習カード(ループリック)、学習中の観察 学習カード(ループリック)
2 ・ 本時	・針と糸を使ってみよう	針と糸の使い方が分かり、玉結び、玉どめができるようにする。 ----- 知 - 針と糸の使い方が分かる。  技 - 玉結び、玉どめができる。 技 - ネームプレートを作ることができる。	学習カード(ループリック) 学習中の観察、学習カード(ループリック)。

			作品
4	・針と糸を使ってみよう	なみ縫いや返し縫いができるようにする。 技 - 糸と針を使ってなみ縫いや返し縫いができる。	学習カード(ループリック), 練習した布
5 ・ 6	・ボタンをつけてみよう ・自分の作りたい小物の製作計画を立てよう	ボタンの役目や種類が分かり, ボタンをつけることができるようにする。 自分の作りたい小物の製作計画を立てることができるようにする。 知 - ボタンの役目や種類が分かる。 技 - ボタンをつけることができる。 創 - 作りたい小物やその製作計画について考えたり自分なりに工夫しようとしている。 技 - 作りたい小物の製作計画を立てることができる。	学習カード(ループリック) 学習中の観察, 練習した布 学習中の観察, 学習カード(計画表, ループリック) 児童の説明書
7 ・ 8	・自分の生活に役立つ小物を作ろう	自分の生活に役立つ小物を計画をもとに製作することができるようにする。 技 - 計画に従って小物を製作することができる。 製作に必要な用具の安全な取り扱いができる。	学習カード(ループリック), 学習中の観察, 作品, 評価テスト

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

オリジナルネームプレートを作ることができる。

(イ) 本時の具体的な手だて

学習カード(ループリック), 説明書

(ウ) 展開

学習活動及び内容	予想される児童の活動	指導上の留意点( )と評価 努力を要する児童への手立て( )
1 本時の学習課題と到達目標を確認する。 今まで学習してきた, 玉結び・玉どめ・名前の縫い取りを行い, 自分だけのオリジナルネームプレートを作ろう。		前時の学習を学習カード(ループリック)を見ながら振り返り, 本時の学習への意欲を高める。(表1) 児童に示す到達目標(観点)
2 前時までに児童が作ったループリックを確認する。(表1)	ループリックを確認し, 本時の活動のめあてをもつ。	(B)ネームプレートを作ることができる。〔玉結び, 玉どめ, 縫い取りができる。〕
3 学習カードを確認して必要な用具をそろえる。	学習カードを確認し, 縫い方に注意をしてネームプレートを製作する。	(A)ネームプレートを正確に作ることができる。〔玉結び, 玉どめ, 縫い取りがきれいにできる。〕 (技能)
4 ネームプレートを製作する。		机間指導しながら, 縫い方を確認していく。
5 ネームプレートの相互評価を行う。	互いの作品を見せ合う。ループリックで自己評価する。	実際の作品作りで工夫がみられるかを確認する。

<p>6 授業の感想を発表する。</p> <p>7 本日の授業のルーブリックを検討し、自己評価を行う。</p> <p>8 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>ルーブリックで相互評価する。</p> <p>感想を述べ合う。</p> <p>オリジナルネームプレートのルーブリックを用いて自己評価を行う。また、付け加える視点があれば検討する。(表2)</p> <p>次時は、なみ縫い等を学ぶことを確認する。</p>	<p>縫い方が美しかったり、工夫がみられたりする場面で賞賛する。</p> <p>製作意欲に欠ける児童には、やり方を示したり、友達の工夫した作品を見せたりして、ネームプレートに対する意欲を喚起させる。</p> <p>本日本験したことを普段の生活でも活用するように話す。</p> <p>各自それぞれが家族の一員としてできる活動があることを再確認する。</p> <p>今日の学習を振り返り、学習カードに記入するポイントを示し、次時の学習への意欲を促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価 方法(観察, 学習カード, 作品)</p> <p>(B)ネームプレートを作ることができる。(玉結び, 玉どめ, 縫い取りができる。)</p> <p>(A)ネームプレートを正確にきれいに作ることができる。(玉結び, 玉どめ, 縫い取りがきれいにできる。形・布の色合い・縫い方もきれいにできる。)(技能)</p> </div> <p>次時はなみ縫い等をする話を話し、興味をもたせる。</p>
--	---	---

#### (4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫(評価場面や評価方法の工夫)

##### ア ルーブリックを用いた評価の工夫

ルーブリックを示すことで、到達目標が明確になり、自己評価力も身に付くと考えた。そこでルーブリックを教師と児童で考えることにした。授業の導入として玉結び・玉どめ・ボタン付け・縫い方の標本をグループごとに示し、児童に「美しくじょうぶな縫い方」の例を理解させた。次に実技を体験してから、みんなで「生活の技能」のルーブリックを考え評価の視点を明確にした。視点は児童の言葉で書いてあるので、自分の作品が、評価のどの位置にいるのかを自ら確認できた。また、努力する点はどんなことなのかも分かり、自己評価力を高めることができた。さらに、到達目標を意識して縫うことができ、基礎的な技能の習得につながった。ルーブリックは、授業中、そして自己評価や相互評価の場面で有効に活用できた。ルーブリックは、当初「ネームプレートを作ることができる。」の評価規準に対し「玉結び、玉どめ、縫い取り」の視点を設けて一つ一つについて作成し、導入で示した。(表1)ネームプレートが完成した後に、「ルーブリックの内容に付け加えることはないか。」と、教師側から児童に質問した。児童

と協議した結果，新たに「完成した作品」の視点を追加し，評価することができた。  
 (表2)

表1 児童と考えたループリックの一部 (生活の技能)

	ネームプレートの製作について			
評価	A	B	C	D
玉結び	美しい形と大きさ。 あまった糸が長すぎない。(5mm以内)	糸がぬけないようにできている。 玉結びになっている。	糸がからまっている。 玉結びが大きすぎか小さすぎかで形が悪い。	玉結びができない。
玉どめ	玉の大きさが良い。 布から離れていない。 ゆるくならないでしっかりとまっている。 糸の始末は2mm～3mmのところで切っている。	少しだけ玉が布から離れている。 玉どめがとまっている。	糸がぐちゃぐちゃにかからまっている。 玉どめが小さいので，布からぬけやすい。	玉どめができない。
ぬい取り	糸の出し入れがしっかりできている。 間があいていない。 ぬい目が整っている。	間違えないでぬえる。 ぬい目の形がだいたい整っている。	糸がからまっている。 ぬい目の形がそろわないので格好が悪い。	名前のぬい取りができない。

表2 後から追加したループリックの内容の一部 (生活の技能)

	A	B	C	D
完成した作品	設計図通りに名前がきちんとぬい取れている。 生地の色と糸の色がバランス良く選ばれていて名前がはっきりぬい取れている。 形が良く名前がぬい取れている。 糸は全くつれず，表と裏の仕上がりがきれい。	名前がぬい取れている。 名前のぬい取りの形はだいたい良い。 糸はつれていない。 裏の始末がきれいでできている。 設計図通りに完成している。	とちゅう糸がからまったが，あきらめないで名前をぬい取れている。 裏のしまつが見た目で少しきたない。 設計図とは全くちがう形に完成している。	名前がぬい取れない。 ネームプレートが完成しない。

#### イ 設計図の工夫

オリジナルネームプレートの設計図は「コマーシャル」として作品の実物大で縫い方を図と言葉で書くようにした。作品製作の完成予想図であるが，途中で方針が変わった場合は，赤で修正すればよいことを話した。この設計図を作成することで，学習の見通しがもて，作品が完成した後の評価にも活用できた。(図1)

#### ウ 説明書の作成

基礎的な知識や技能の振り返りをするために，言葉や図による縫い方の説明書を書くことにした。「自分より年下の子が読んで分かるように説明書をつくらう。」という条件で，説明書を自分の言葉や図で考えて書くようにした。児童は自分が学んだことを相手を意識し，分かりやすく書こうと努力した。書いたことにより，学んだ知識や技能の振り返りができた。

教師は、児童の到達度を確認できた。授業後、「縫い方を忘れてしまった。」という児童は一人もいなかった。説明書を作成したことで、学んだことが定着したためと思われる。

(図2)



図1 ネームプレートのCM

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

ループリックを児童と教師で考えたことにより到達目標が明確になった。児童にとっては、目指す縫い方を意識することができ、自己評価力の育成につながった。最初は、上手に縫えなかった児童も、ループリックに照らし合わせながらやる気を喚起し技能が上達した。教師にとっては、評価をする際の的確な判断基準となった。ネームプレート製作後もループリックを用いて評価した結果、児童の縫い方の技能は、確実に上達した。授業の回数を重ねるうちに、教師の評価と児童の自己評価の一致が多くみられた。(表3)

設計図を実物大で描き、説明のこたばを書いたことで、児童は、完成する作品をイメージすることができ、作品を製作する時間を有効に使うことができた。教師にとっては、児童の考えが分かり、的確なアドバイスができた。(図1)

縫い方の説明書を、児童自らの言葉や図で表すことにより、分からないところやあいまいな点が早期発見できた。児童にとって、学んだ知識や技能の振り返りができた。

(図2)

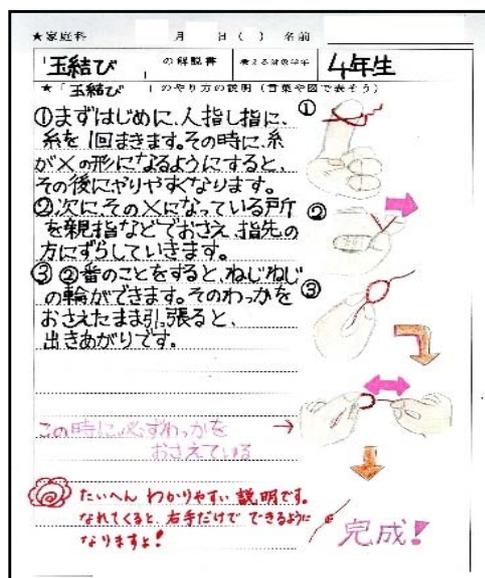


図2 作成した説明書

表3 児童と教師の評価の比較「生活の技能」(縫い取りと縫い方)(第5学年1組, 40人) (単位:人)

授業を行った時間	初 回				本時(3時間)				4時間				7時間			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
児童の自己評価	3	32	3	2	12	25	2	1	11	28	1	0	13	26	1	0
教師がつけた評価	1	34	3	2	7	30	2	1	9	30	1	0	12	27	1	0

イ 課題

ループリックを作る際には、教師一人と児童だけでなく、多くの教師との話し合いをもとに、評価内容を吟味すると、より判断しやすいものができるようになる。学習活動におけるねらいにループリックが適しているかを振り返り、授業改善に役立てたい。ループリックや言葉と図による設計図や説明書は、基礎的な知識・技術の習得にたいへん有効であることが分かった。さらに研究を進めて、他の題材においても、活用していきたい。

【授業研究 2】 小学校第 5 学年「ミシンで作ろう！オリジナルグッズ」における学習マップとルーブリックを用いた評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

学習マップ（一枚ポートフォリオ）やルーブリックを用いて授業研究を行うことで、児童の自己評価力の向上を目指す。

題材観

この題材は生活に役立つ物を、布を用いて製作することを通して縫うなど製作に関する基礎的技能を身に付け、日常生活で活用できるようにすることをねらいとしている。

児童の実態について (平成19年7月15日実施, 第5学年2組, 28人)

設 問	回 答
手縫いによる小物作りは自分の思い通りにできましたか。	はい 22人 いいえ 6人
思い通りにできなかった理由は何ですか。( できいいと答えた6人 複数回答)	ボタン付けやなみ縫いなど縫い方が上手にできなかった 5人 計画していたよりも時間がかかった 5人
ミシンを使って縫ったことがありますか。	はい 5人 いいえ 23人
2学期にミシンを使った製作をしますが、楽しみですか。	楽しみ 15人 楽しみだが心配 13人 楽しみではない 0人
どんなことが心配ですか。 ( で心配と答えた13人 複数回答)	ミシンがうまく使えるか 13人 思い通りの形ができるか 8人 計画通りに進むか 8人

アンケートの結果から、1学期の小物作りでは思い通りに製作できたという児童が多いものの、上手に縫えなかった、計画通りに製作できなかったと感じている児童もいた。また、ミシンを使ったことがない児童がほとんどであり、学習に不安を抱いていることが分かった。

そこで、学習課題に意欲的に取り組めるよう学習における場や学習カードを工夫する。2人で1台のミシンを使用し、互いにアドバイスをし合える学習形態にする。また、何ができるようになったのか到達目標を設定して提示し、意欲を喚起するようにしたい。そして、できるようになったことや分かったことを学習カードに書かせる。それを学習の途中で読み返ししながら、自分の学習目標を設定したり生活に生かしたりする主体的な態度を育てたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手だて（これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫）

学習マップ（一枚ポートフォリオ）の活用

使用する学習カードは「一枚ポートフォリオ」形式の学習の流れが分かるような「学習マップ」にする。本題材の振り返りを1枚のカードに積み重ねて記入していくことで、できるようになったことやもう少しがんばりたいことをふまえて次時のめあてや課題を設定できるようにし、次の学習への意欲を高め、主体的に学習に取り組めるようにする。

ルーブリックを取り入れた学習カードの工夫

ルーブリックを作成し、学習カードに提示する。本時の達成目標を明確にすることで、児童の学習意欲や自己評価力を高めるようにする。教師も児童の姿を的確にとらえて評価

することで指導を振り返り，次の学習指導に生かせるようにする。

(3) 授業の実践

ア 題材名 ミシンで作ろう！オリジナルグッズ

イ 本題材の目標

布を用いて生活に役立つ物を製作することに関心をもち，ミシンを使って楽しみながら製作しようとしている。 (家庭生活への関心・意欲・態度)

布を用いた生活に役立つ物を考え，材料や形など，自分なりに試したり工夫したりしている。 (生活を創意工夫する能力)

布を用いた生活に役立つ物の製作計画を立て，裁縫用具やミシンを安全に使って作ることができる。 (生活の技能)

裁縫用具やミシンの安全な取り扱い方，および製作に必要な材料や手順，方法が分かる。 (家庭生活についての知識・理解)

ウ 本題材における評価規準 <指導内容 (3)>

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
布を用いた生活に役立つ物の製作に関心もち，製作し，活用しようとしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり，自分なりに工夫したりしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な技能を身に付けている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な事項について理解している。

エ 指導計画 (14時間)

第1次 暮らしの中の布製品を調べよう・・・・・・・・・・ 2時間

第2次 ミシンにチャレンジ・・・・・・・・・・ 4時間

第3次 オリジナルグッズをつくろう・・・・・・・・・・ 7時間(本時はその第5時)

時間	小題材名・主な学習活動	ねらい ----- 学習活動における具体の評価規準	評価方法
1 2	試作したことをもとにして計画を立てよう。 ・試しの製作をする。 ・計画を立てる。	自分が作りたい作品を試作し，製作計画を立てることができる。 ----- 関 - どのような形や機能をもつ物にするかを構想し，製作計画を立てようとする。 創 - 製作する物やその製作計画について考えたり，自分なりに工夫したりしている。 技 - 製作計画を立てることができる。	製作中の観察，学習マップ 学習カード，製作中の観察 学習カード
3 4 6 7	作ろう！オリジナルグッズ ・布を裁ってしるしをつける。 ・しつけをする。 ・ミシンで直線縫いをする。 ・ひもや飾りをつける。 ・アイロンで仕上げる。	計画にそって工夫して作品を作ることができる。 ----- 知 - ミシン，アイロンなど製作に必要な用具の安全な取り扱い方を理解している。 技 - 製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。 技 - ミシンを使って直線縫いができる。 創 - ミシンを使って，自分なりに縫い方を工夫した作品をつくることができる。	製作中の観察，学習カード 製作中の観察，学習カード 製作中の観察，作品学習マップ，作品

第4次 オリジナルグッズ発表会を開こう・・・・・・・・・・ 1時間

表1 小題材（作ろう！オリジナルグッズ）のルーブリック（生活の技能）

学習活動	観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価 方法	判断基準	
				B ( )	A ( )
4 作ろう！オリジナルグッズ	技能	製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。	製作中の観察，学習カード	はさみ，針を安全に使用し，使用後は元の場所にもどすことができる。	はさみ，針を安全に使用し，使用後は元の場所にもどすことができ，終了時には安全確認ができる。
	技能	ミシンを用いて直線縫いができる。	製作中の観察，製作品の観察	ミシンを用いて，できあがり線上に直線縫いができる。	ミシンを用いて，できあがり線上をまっすぐに直線縫いができ，必要に応じて始めと終わりは返し縫いができる。

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

製作計画にもとづいて，ミシンで直線縫いをすることができる。

(イ) 本時の具体的な手だて

学習マップ（一枚ポートフォリオ）での学習の振り返り

ルーブリックの提示による学習意欲の喚起

学習活動及び内容	予想される 児童の活動	指導上の留意点（ ）と評価 努力を要する児童への手立て（ ）
1 本時の学習課題と到達目標を確認する。 作ろう！オリジナルグッズ <ミシンで直線縫いの巻>		学習マップを見ながら今までの学習を振り返り，本時の意欲を高める。 児童に示す到達目標（観点） (B) はさみ，針を安全に使い，使い終わったら元の場所にもどすことができる。 できあがり線上に直線縫いすることができる。 (A) はさみ，針を安全に使い，使い終わったら元の場所にもどすことができ，終わりには安全確認ができる。 できあがり線上をまっすぐに直線縫いすることができる。 (必要があれば，はじめと終わりは返し縫い)（技能）
2 オリジナルグッズの製作をする。 ミシンを準備する。 ミシンで縫う。 しつけ糸をとり，糸はしの始末をする。	・学習カードを確認したり，声をかけたりしながら準備を進める。	2人に1台のミシンを使用する。1人が使用しているときは，もう一人がアドバイスするようにする。 ミシンが動いているときは，声をかけないようにさせる。

<p>3 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫う順序を確認し，直線縫いをする。</li> </ul>	<p>チェックカードで，手順通りにミシンを操作することができるか確認しながら作業を進める。</p> <p>思うように活動が進まない児童にはこれまでの学習カードやミシンの説明図を見ながら考えて解決するよう助言する。</p> <p>常に机上の整理整頓をさせ，安全に作業ができるようにする。</p>
<p>4 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに自己評価を記入する。</li> <li>・学習マップにできたこと，分かったことを記入する。</li> </ul>	<p>本時の学習を振り返り，学習マップに記入するポイントを示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 方法（観察，学習マップ，作品）</p> <p>(B) はさみ，針を安全に使い，使い終わったら元の場所にもどすことができる。</p> <p>できあがり線上に直線縫いすることができる。</p> <p>(A) はさみ，針を安全に使い，使い終わったら元の場所にもどすことができ，終わりには安全確認ができる。</p> <p>できあがり線上をまっすぐに直線縫いすることができる。</p> <p>(必要があれば，はじめと終わりは返し縫い) (技能)</p> </div>

(4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫（評価場面や評価方法の工夫）

学習マップ（一枚ポートフォリオ）での本時までの学習の振り返り

図1は学習後に分かったことやできたことを振り返って記入してきた学習マップ（一枚ポートフォリオ）である。本時はこの学習マップで今までの学習を振り返ることから始めた。特にミシンの使い方について学習したときに「おさえを下げないでミシンをスタートしてしまった。次はおさえを下げることを忘れないように」「直線縫いをするときにはミシンの針としるしをよく見る」「手はそっとそえる」などの記述があった。そして、本時の到達目標を確認して活動を始めると「できあがり線上に直線縫いをする」という目標に向けて意欲的に取り組んでいた。

2人で1台のミシンを使用しているので互いにアドバイスしながら作業を進めていた。「ゆっくり，ゆっくり」「おさえと針を下ろしてからだよ」という声をかけている様子も見られた。学習マップを作成し，活用したことで，児童は学習成果と学ぶ点が明確になり，主体的に学習に取り組むことができた。



アドバイスしながら学習を進める様子

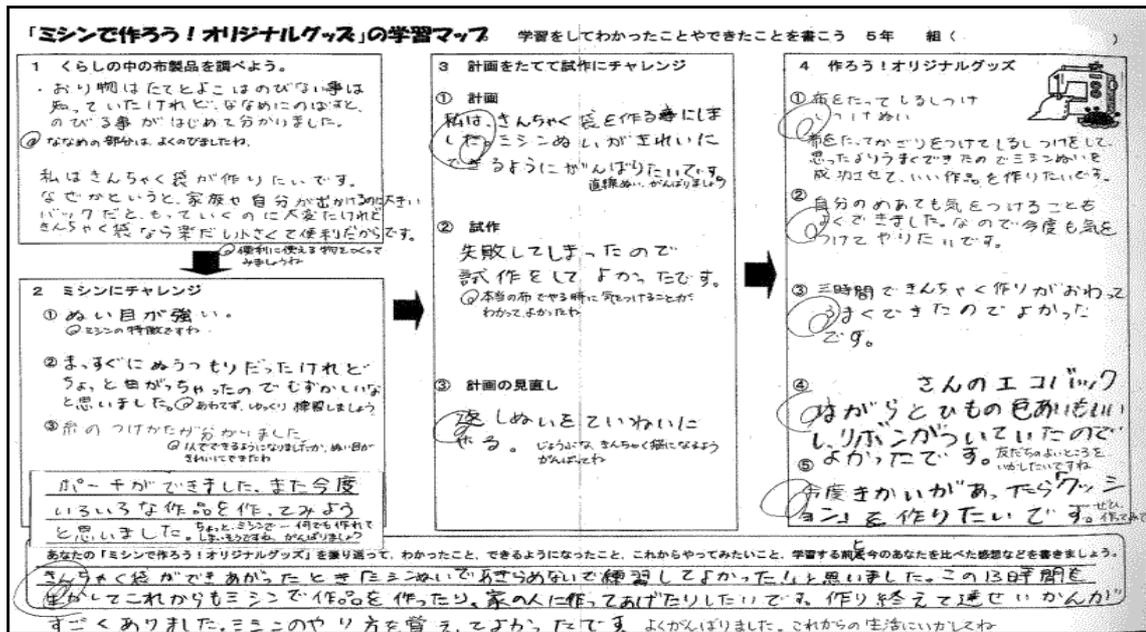


図1 学習マップ（一枚ポートフォリオ）

### ループリックの活用

表1のようなループリックを作成し、評価した。また、本時の学習力 - ドと黒板にも提示し、到達目標として意識して製作するようにした。授業中は20頁表1の「技」について観察を中心に、「技」の直線縫いについては授業中の観察と製作品で評価した。授業後に教師の評価と児童の自己評価を比較していくと、教師は「十分満足できる」(A)と評価、児童は「おおむね満足できる」(B)と評価、というように児童は自分を厳しく評価する傾向があった。しかし、相互評価や実物標本を参考にした評価を取り入れながら評価の回数を重ねるうちに、教師と児童の評価が一致するようになってきた。(表2)ループリックを作成し到達目標を提示し、自己評価を重ねることで、学習の成果を妥当に評価する力が向上した。

表2 児童と教師の評価の比較 「生活の技能」(第5学年2組, 28人) (単位:人)

評価	第1次6時間目			第2次8時間目			第3次10時間目			第3次11時間目		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
児童の評価	3	17	3	6	21	1	5	23	0	6	22	0
教師の評価	5	22	1	8	20	0	6	22	0	6	22	0

### (5) 授業研究の成果と課題

#### ア 成果

学習マップに記入し蓄積したことで、児童がこれまでの学習成果を振り返り、次の目標をもち主体的に学習しようとする態度を向上させることができた。

ループリックを作成し、評価に取り入れたことで、児童は到達目標を意識して意欲的に学習に取り組み、判断基準に照らし合わせて学習の成果を評価する力が向上した。

授業中の判断基準を明確にしたことで、個への支援の時間を確保することができた。

#### イ 課題

達成度を判断する基準をより分かりやすくするためには、図や実物見本を使って提示するなどの工夫をし、判断基準を児童と教師で共有できるようにしていく必要がある。

【授業研究3】 中学校第1学年「本や小物の収納に役立つものをつくろう」における生徒一人一人に到達目標を達成させるための評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

自己課題の設定を見直す活動を取り入れ、学習シートや自己評価と関連づけて授業研究を行うことで、到達目標の達成を目指す。

題材観

自分の生活に役に立ち、実際に活用することのできるものづくりを通して、生活に必要な知識と技術の習得や生活を工夫し創造する能力を育成するとともに、生活をよりよくしようとする意欲と実践的な態度を育成する。

生徒の実態について (平成20年6月26日実施, 第1学年1組, 34人)

設 問	回 答
「技術」という言葉から何を連想しますか。	何かをつくる 15人 コンピュータ 7人 機械 2人 電気機器 2人 ロボット 2人 建設 1人 無回答 5人
身の回りにある電気製品で便利だと思うものは何ですか。	コンピュータ 12人 テレビ 7人 エアコン 5人 ゲーム機 3人 携帯電話 2人 冷蔵庫 2人 洗濯機 1人 無回答 2人
自分の力で設計から製作まで行ったことがありますか。	ある 4人 ない 30人
ものづくりは好きですか。	とても好き 12人 どちらかといえば好き 15人 どちらかといえば好きではない 6人 好きではない 1人
これから始まるものづくりの学習は楽しみですか。	とても楽しみ 17人 どちらかといえば楽しみ 15人 どちらかといえば楽しみではない 2人 楽しみではない 0人

アンケートの結果と普段の授業の様子から、本学級はものづくりへの関心が高く、学習に対する意欲も高いことがわかる。また、設計から製作までの工程を経験したことがある生徒は少ないものの、これから始まるものづくりの学習に対する関心・意欲は高く、長期間にわたる題材の中で、教師が生徒の関心・意欲をさらに高揚させ、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得に結びつけていかなければならないと考える。

一方で、「技術」という言葉から連想するものの多くは、遊びや余暇の過ごし方に関するもので、実生活の中における技術の役割を実感している生徒は少ない。そこで、技術の進歩についての話し合い活動を通して、技術の役割と発達による生活の変化について理解できるようにしていきたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

到達目標の提示の工夫による課題意識の明確化と学ぶ意欲の喚起

学習シートの工夫による自己課題の設定と振り返り

(3) 授業の実践

ア 題材名 本や小物の収納に役立つものをつくろう

イ 本題材の目標

ものづくりに関する技術について関心をもち、その在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする。(生活や技術への関心・意欲・態度)  
ものづくりに関する技術を適切に活用し、生活の中で生じる課題を解決するために工夫し創造することができる。(生活を工夫し創造する能力)

ものづくりに関する基礎的な技術を身に付け、その技術を安全かつ適切に活用できる。(生活の技能)

ものづくりに関する基礎的な知識を身に付け、ものづくりの技術が生活や産業に果たしている役割を理解することができる。(生活や技術についての知識・理解)

ウ 本題材における評価規準 <指導内容 A(1)~(4)>

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
ものづくりに関する技術について関心をもち、そのあり方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとしている。	ものづくりに関する技術を適切に活用し、生活の中で生じる課題を解決するために工夫し創造している。	ものづくりに関する基礎的な技術を身に付け、その技術を安全かつ適切に活用できる。	ものづくりに関する基礎的な知識を身に付け、ものづくりの技術が生活や産業に果たしている役割を理解している。

エ 指導計画(35時間)

第1次 技術とわたしたちの生活 . . . . . 2時間(本時はその第1時)

時間	小題材名 ・主な学習活動	ねらい	評価方法
		学習活動における具体的評価規準	
本時	なぜ「技術」が進歩したのかを考えよう。 ・電気が止まってしまったら生活はどうなるか考える。 ・生活における技術がどのように進歩してきたか話し合う。 ・技術の役割についてまとめる。	技術の役割と、発達による生活の変化について理解することができる。 関 - 発達してきた電気製品等が、生活をどのように変化させてきたかについて調べようとしている。 知 - 技術の役割と、発達によるわたしたちの生活の変化について説明できる。	学習シート、 観察 学習シート
2	技術の発達とエネルギー利用とのかわりを調べよう。 ・エネルギー利用の変化の経緯や理由を考える。 ・産業と技術の発達について調べる。 ・建築、工場の今昔を例に、生産ロボットと人間の技能や創造性を比較する。	エネルギー利用の変化がもたらした技術の発達や機械の発達について理解することができる。 関 - 人力から水力や風力、原動機へとエネルギー利用の変化がもたらした技術の発達や機械の発達について調べようとしている。 知 - 人力から水力や風力、原動機へとエネルギー利用の変化がもたらした技術の発達や機械の発達について理解している。	学習シート、 観察 学習シート

第2次 製品の機能と構造、材料の特徴 . . . . . 5時間

- 第3次 製品の設計（構想図の作成）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間
- 第4次 加工法の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- 第5次 製作に使用する機器の仕組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第6次 製作品の製作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15時間
- 第7次 これから求められる技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

発達してきた電気製品等が，生活をどのように変化させてきたかについて調べようとする。  
 （生活や技術への関心・意欲・態度）

技術の進歩についての話し合い活動を通して，技術の役割と発達による生活の変化について理解することができる。  
 （生活や技術についての知識・理解）

(イ) 本時の具体的な手立て

関心・意欲・態度と知識・理解の観点において生徒が理解できる表現で到達目標を提示

授業の途中で自己課題を見直す学習活動の展開

(ウ) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点（ ）と評価 努力を要する生徒への手立て（ ）
1 本時の学習課題と到達目標を確認し，自己課題を立てる。	電気がないと昔の生活に戻ってしまう。 電気がないと不便。 電気製品のおかげで今の生活がある。	現在の生活を認識させた上で，災害などで長期間，電気が止まってしまった生活を類推させることを通して，生活は現在から過去へ変わることを認識させ，電気的重要性と現在の生活を成り立たせる技術の役割に関心をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             なぜ「技術」が進歩したのかを考えよう              ～身の回りの電気製品等で生活はどのように変化してきたのだろうか～           </div> 2 生活における技術がどのように進歩してきたか生活者の思いを中心に話し合う。 (1) 生活者の「思い」と「技術の進歩」  (2) 生活の変化	(1) 新たな製品がつけられたのは生活者のより簡単に，より安全に，より早く，より快適に，より正確に等の思いがあったからだ。  (2) 便利になった。 家事への労力・時間が節約でき生活が豊かになった。	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">             生徒に示す到達目標（観点）              (B) 発達してきた電気機器等が，生活をどのように変化させてきたかについて調べようとしている。              (A) 生活者の思いや技術の進歩を考えると，技術の発達が生活をどのように変化させてきたかについて調べようとしている。（関・意・態）               (B) 技術の役割と，発達によるわたしたちの生活の変化について説明できる。              (A) 技術の役割と，発達による家事への労力・時間の節約が生活を豊かにしてきたことについて説明できる。              （知識・理解）           </div> 到達目標は「十分満足できる状況(A)」もキーワード（生徒に示す到達目標のゴシック部分）を示すことで，高い目標をもって学習に取り組ませたい。

<p>(3) これからどうなっていくか</p>	<p>(3) これからさらに生活を豊かにする製品が開発される。</p>	<p>話し合いの途中で自己課題を見直し、到達目標の達成を意識して残りの学習を進めることができるようにする。</p>
<p>(4) 技術の役割とは</p>	<p>環境に配慮した製品が開発される。</p>	<p>生活者の思いを考えることで、その実現のために技術が進歩してきたことに気付かせたい。</p>
<p>3 話し合ったことをグループごとに発表する。</p>	<p>(4) 技術は人々の夢や希望を実現してくれるものだ。</p>	<p>生活者の思いを考えることで、その実現のために技術が進歩してきたことに気付かせたい。</p>
<p>4 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>グループの代表が技術の役割について発表する。</p>	<p>生活の変化を「便利になった」ととらえた生徒には、「どのように便利になったのか」について考えるよう助言する。</p>
<p>5 次時の学習内容を知る。技術の発達とエネルギー利用とのかかわりを調べよう</p>	<p>技術の役割についてまとめる。</p> <p>技術の発達が生活をどのように変化させてきたかについて調べることができたからわたしはBだ。</p> <p>生活者の思いや技術の進歩を考えながら調べることができたからわたしはAだ。</p> <p>技術の役割と、発達によるわたしたちの生活の変化についてまとめられたからわたしはBだ。</p> <p>技術の発達が家事への労力・時間を節約し生活を豊かにしてきたことについてまとめられたからわたしはAだ。</p>	<p>グループの発表をもとに、生活上の問題が生活者の夢や希望を生み、その実現のために技術が進歩したという大きな流れが理解できるまとめ方をする。</p> <p>学習シートの評価の欄に記入するポイントを示しながら、自分の学習を振り返らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 方法(学習シート, 観察)</p> <p>(B) 発達してきた電気機器等が、生活をどのように変化させてきたかについて調べようとしている。</p> <p>(A) 生活者の思いや技術の進歩を考えることで、技術の発達が生活をどのように変化させてきたかについて調べようとしている。(関・意・態)</p> <p>&lt;評価&gt; 方法(学習シート)</p> <p>(B) 技術の役割と、発達によるわたしたちの生活の変化について説明できる。</p> <p>(A) 技術の役割と、発達による家事への労力・時間の節約が生活を豊かにしてきたことについて説明できる。(知識・理解)</p> </div>

(4) 授業の分析と考察

生徒一人一人に到達目標を達成させるための評価の工夫

到達目標の提示の工夫による課題意識の明確化と学ぶ意欲の喚起について

本時の学習課題を確認した後、関心・意欲・態度と知識・理解の観点における到達目標を、生徒にとって理解しやすい表現で提示した。

方法は学習シートの評価の欄に、「こんな姿が見られるといいね。こんな力をつけたいね。(B)」として到達目標を示し、確認した(図1)。また、評価が「十分満足できる状況(A)」となりうる基準の例をキーワード(指導案中の二重線内ゴシック部分)のみ口頭で紹介し、より高い意識をもって学習に臨むことができるように配慮した。

図1 全ての生徒に理解できる表現で到達目標を提示した学習シート

本時と第2次第3時の生徒の自己評価及び教師による評価の内容をまとめると表1の通りである。

表1 授業後の生徒の評価と教師の評価の比較

学習箇所	第1次 第1時(本時)				第2次 第3時			
	関心・意欲・態度		知識・理解		関心・意欲・態度		知識・理解	
評価内容	生徒の自己評価( )	教師による評価( )	生徒の自己評価( )	教師による評価( )	生徒の自己評価( )	教師による評価( )	生徒の自己評価( )	教師による評価( )
生徒1	A	A	A	B	A	A	B	B
生徒2	A	A	A	A	A	A	A	A
生徒3	B	B	A	B	B	B	B	B
生徒4	B	A	A	A	A	B	A	A
生徒5	A	B	A	B	A	A	B	B
~~~~~								
生徒34	A	A	A	B	A	A	A	A
= の割合	61.7%		47.0%		67.6%		64.7%	

生徒は本時の目標を明確にとらえ、到達目標の達成に向けて自己課題を立て、熱心に学習に取り組む様子が見られた。また、このことが生徒の自己評価と教師による評価との間にあった判断基準の相違を減少させ、生徒が適切な判断基準をもちながら、自己の

学習状況を振り返ることにもつながった。

自己評価カードの工夫による自己課題の設定と振り返り

生徒は、学習内容を把握し到達目標を理解した後、図1で示した学習シートを活用して、到達目標を盛り込んだ自己課題を設定した。また学習活動の途中で、図1の右端に

自己課題を見直す活動を取り入れ、必要に応じて修正を加えた。生徒は、自分の課題を確認し、再び、自分の現状をふまえた自己課題に設定し直すことで、自己目標を的確にとらえ、到達目標に向けた学習活動の充実とともに、学習意欲を高めることができた。また、自己課題の見直しの活動では、自己課題がすでに達成できた生徒が、質的に

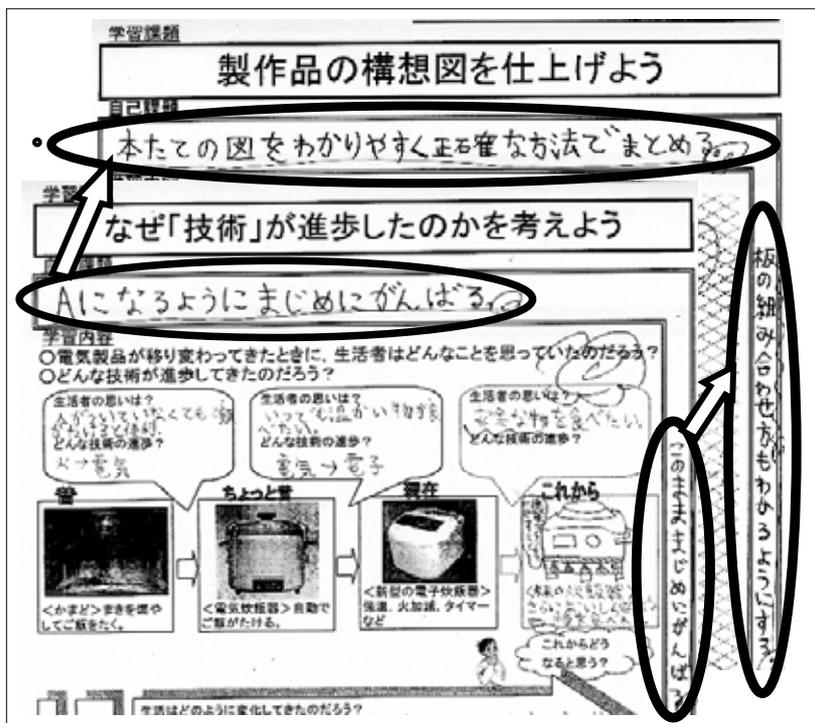


図2 自己課題の設定と見直しの様子

高い自己課題に修正する様子も見られた。さらに、終末で自己課題の達成状況を生徒一人一人が振り返った。これらは、授業の導入から終末まで、生徒が到達目標の達成を意識して学習に取り組むことにつながった。

また、毎時間自己課題を立て、修正し、振り返ってまとめるといった言語活動を繰り返す中で、はじめは「まじめにがんばる」「Aになるようにがんばる」といった自己課題を立てていた生徒が、「材料の特徴を比べながら調べる」、「板の組み合わせ方もわかるように正確な方法で図をまとめる」といったように、到達目標を意識しながら自分の願いを盛り込んで自己課題を立てることができるようになった。こうした言語活動によって、論理的思考や生活の課題を解決する能力も少しずつ高まってきた。

#### (5) 授業研究の成果と課題

##### ア 成果

関心・意欲・態度と工夫創造の観点においては、到達目標の提示が難しいという思いが教師側にあったが、方法を工夫すれば可能であり、生徒の学習意欲を高めることに効果があることが分かった。

自己課題を学習活動の途中で見直すことは、生徒が振り返りをすぐにその後の学習に生かすことができ、学習への意欲付けと到達目標の達成につながる事が分かった。

##### イ 課題

生徒がさらに理解しやすい到達目標の表現方法と提示の仕方を工夫していきたい。実践と調査を重ね、生徒の変容を具体的にとらえながら今後の研究に生かしていきたい。

【授業研究 4】 中学校第 1 学年「身の回りを整とんするものの設計と製作」における生徒一人一人に到達目標を達成させるための評価と教材・教具の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

教材・教具の工夫・改善を図り，具体的な視点を示した自己評価カードを用いて授業研究を行うことで，到達目標の達成を目指す。

題材観

生徒が自分の生活を見直し，物の収納に関する問題意識をもち，それを解決するために整とんするものの設計と製作を行うことで，よりよく生活を改善しようとする態度を養う。

また，実践的・体験的な学習活動を取り入れ，体験して学ぶことによって，基礎的・基本的な知識と技術の定着を図り，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育成する。

生徒の実態について

(平成20年 5 月 8 日実施，第 1 学年 3 組，36 人)

設 問	回 答
設計図をもとにして何か製作したことがありますか。	ある 29人， ない 7人
・「ある」と答えた人は，どこで製作しましたか。(複数回答)	小学校 11人， 自宅 19人， その他 1人
設計図を自分でかいて何か製作したことがありますか。	ある 19人， ない 17人
・「ある」と答えた人は，どこで製作しましたか。(複数回答)	小学校 18人， 自宅 3人
製作品を製作するときに設計図は必要だと思いますか。	必要だ 36人， 必要ない 0人

生徒の意識・実態調査によると，設計図をもとに何か製作した経験がある生徒は 8 割であり，自分で設計図をかいてもものを製作した経験がある生徒は，5 割強であった。しかし，それらの生徒は小学校での図画工作の教材で，キット製品をつくった程度である。設計図もデザインをかいただけであり，製作品の構造や機能を考えた設計は行っていない。また，初期の段階でかかせたつくりたいもののスケッチを見ると，22人の生徒が，こばやこぐちの面をかかず，線だけのかき方をしている。図法においても等角図やキャビネット図のような立体的なかき方をしていない生徒が 6 人いた。このような現状を踏まえ，実験や体験を通して，より具体的に基礎的な知識と技術を習得させることが必要であると考えます。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体の手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

目標達成への意識付けと主体的な学習活動を図るための到達目標を記載した自己評価カードの工夫

到達目標を達成するための教材・教具の工夫・改善

(3) 授業の実践

ア 題材名 身の回りを整とんするものの設計と製作

イ 本題材の目標

身の回りを整とんするものを進んで製作しようとする意欲をもち，生活をよりよくするために習得した知識と技術を積極的に活用しようとする。

(生活や技術への関心・意欲・態度)

製作品の設計と製作を通して身に付けた基礎的な知識と技術を用いて，生活を工夫した

り，創造したりすることができる。 (生活を工夫し創造する能力)  
 製作品の設計や製作に必要な加工に関する基礎的な技能を身に付け，その技術を安全で適切に活用することができる。 (生活の技能)

生活や産業の中での技術の役割について理解し，ものづくりにおける設計及び加工に関する基礎的な知識を身に付けることができる。 (生活の技術についての知識・理解)

ウ 本題材における評価規準 <指導内容 A(1)～(4)>

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
ものづくりに関する技術について関心をもち，そのあり方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し，主体的に活用しようとしている。	ものづくりに関する技術を適切に活用し，生活の中の課題を解決するために工夫し創造している。	ものづくりに関する基礎的な技術を身に付け，その技術を安全かつ適切に活用できる。	ものづくりに関する基礎的な知識を身に付け，ものづくりの技術が生活や産業に果たしている役割を理解している。

エ 指導計画 (35時間)

- 第1次 技術と私たちの生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第2次 製作品の設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10時間
  - 第1時 製作品のスケッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
  - 第2時 使用目的と使用条件，機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
  - 第3時 じょうぶな構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
  - 第4時 材料の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
  - 第5時 等角図のかき方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
  - 第6～8時 構想図の完成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間 (本時はその第1時)

時間	小題材名・主な学習活動	ね ら い 学習活動における具体的評価規準	評価方法
本時	構想図をかくときの注意点を調べよう ・提示された構想図の問題点を考える。 ・板材の厚みをかいた構想図をもとに模型をつくる。 ・注意点をまとめる。 ・板材の厚みや接合部分に注意しながら構想図をかく。	主体的に模型をつくり，板材の厚みや接合部分のかき方の注意点について理解することができる。 関・主体的に模型をつくったり，構想図をかくときの注意点をまとめたりしようとしている。 知・板材の厚みや接合部分のかき方の注意点について理解する。	観察 自己評価 学習カード  構想図 学習カード 自己評価
2 3	構想図を完成させよう ・構想図をかく。 ・図法におけるきまりや寸法の表示方法を知る。 ・構想図を仕上げる。	つくろうとする製作品の構想が明確になるよう工夫して，製作品の構想を等角図で表示することができる。 関・構想を表示する方法に注意しながら，進んでつくろうとする製作品の構想を等角図で表示しようとしている。 工・構想したものの形や必要な情報が明確になるように図を工夫している。 技・つくろうとする製作品の構想を，接合部分や寸法などを明確に表示して，等角図でかくことができる。 知・図法におけるきまりや寸法の表示方法を理解する。	(4観点とも次の方法で評価する) 観察 構想図 自己評価 学習カード

- 第9・10時 構想図の修正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第3次 製作品の製作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18時間

第4次 機械のしくみと保守点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

第5次 学習のまとめ及び成果の発表と反省・・・・・・・・・・・・ 2時間

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

主体的に模型をつくったり，構想図をかくときの注意点をまとめたりしようとする。  
(生活や技術への関心・意欲・態度)

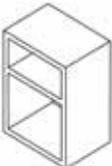
板材の厚みや接合部分のかき方の注意点について理解することができる。  
(生活や技術についての知識・理解)

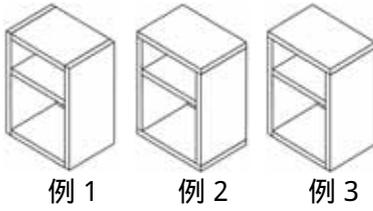
(イ) 本時の具体的な手立て

主体的な取り組みをうながすための自己評価カード

到達目標を達成するための教材・教具の活用

(ウ) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点( )と評価 努力を要する生徒への手立て( )
<p>1 本時の学習課題と到達目標を確認し、「私の課題」を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>構想図をかくときの注意点を調べよう</p> </div> <p>2 スケッチをもとにして，構想図をかくときの注意点を考える。</p> <p>(1) 提示された構想図の問題点を考える。 ・板の厚みがない。</p>  <p>(2) 板の厚みをかいた構想図をもとに，模型を組み立てる。</p>  <p>(3) 組み立てた模型を発表し合う。</p>	<p>予想される生徒の活動</p> <p>学習内容や到達目標から自己評価カードに「私の課題」を記入する。</p> <p>(1) 構想図のどこが問題点かを考える。</p> <p>(2) 構想図を見ながら，板材の組み合わせを友達といっしょに考え，組み立てる。</p> <p>(3) 他のグループが組み立てた模型の</p>	<p>指導上の留意点( )と評価 努力を要する生徒への手立て( )</p> <p>「つくりたいもの」のスケッチをもとに構想図をかく学習であることを知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒に示す到達目標(観点)</p> <p>(B) 板材の厚みや接合部分のかき方の注意点をすすんで調べようとしている。</p> <p>(A) 主体的に模型をつくり，板材の厚みや接合部分をかく理由をすすんで調べようとしている。(関・意・態)</p> <p>(B) 板材の厚みや接合部分のかき方がわかる。</p> <p>(A) 板材の厚みや接合部分をかくことで，部材や作品全体の大きさが明確になることがわかる。(知識・理解)</p> </div> <p>生徒に示す到達目標は「ほぼ満足できる状況(B)」であるが，さらに高い目標をもって学習に取り組ませるために，「十分満足できる状況(A)」を伝える。</p> <p>こばやこぐちの面を意識して構想図にかかせるために，板の厚みのない線だけの構想図を示し，問題点を考えさせる。</p> <p>問題点が出てこない場合には，事前に確認したスケッチで，板材の厚みをかいている生徒を指名する。</p> <p>なぜ板の厚みをかかなければいけないのかについては，ここでは触れず，上級生がつくった作品をもとにこばやこぐちがあることを確認し，構想図にかくことが大切であることを話す。</p> <p>接合部分の線をかいていない構想図からは，いろいろな組み合わせができてしまうことに気づかせるために，側板2枚と棚板3枚，底・上板各1枚を用意し，構想図をもとに組み立てる。その時に，側板2枚を含め5枚の板材で作ることを告げる。</p> <p>なかなか取り組めない生徒もいるので，隣の座席の友達と2，3人1組になり，相談しながら組み立てるようにさせる。</p> <p>いろいろな組み合わせができることに気づかせるために，お互いに組み立て方を</p>



(4) 組み立てた模型を見て、学習カードの構想図に接合部分のこぐち面をかき入れる。

3 スケッチをもとに構想図をかく。



4 本時の学習の振り返りをする。自己評価カードを記入する。

5 次時の学習内容を確認する。

構想図を完成させよう

発表を聞き、自分たちが組み立てた模型と比べる。

(4) 学習カードの構想図に接合部分のこぐち面をかき入れる。

接合部分や図法に注意しながら構想を等角図でかく。構想を正しく等角図でかけない。

到達目標を達成できたかを評価し、記入する。

発表し合う。

どの接合方向が正しいかには触れず、接合部分の組み合わせ方を確認し、比較させる。

どうしていろいろな組み合わせ方ができたのかを考えさせ、構想図の接合部分のこぐち面をかくことが大切であることと接合部分のこばやこぐちの面をかくことで、組み合わせが1つ決まることを知らせる。

学習カードの構想図に、接合部分のこぐち面をかかせることによって、接合部分のかき方と必要性を確認する。

発表した模型を分解し、使用した板材の長さが異なることを確認させ、「接合の方向によって部材の大きさが違ってくることを意識しながら構想図をかく」心構えをもたせる。

斜眼紙の1マスは、10mmであることを知らせ、長さは実際の2分の1の長さでかくように指示する。

スケッチを等角図でかいていない生徒には、等角図のかき方を確認させるために、スケッチの上に、斜眼紙をコピーしたOHPシートをのせ、スケッチしたものを等角図にしてかき写す。それをもとにして構想図がかけられるようにする。特にスケッチで、側面や上面を正面と並べてかいている生徒は、前に集めてOHPシートの使い方を説明し、活用させる。

自己評価カードに適切に評価が記入できるようポイントを示す。

評価を記入しながら自分の学習を振り返らせる。

<評価> 方法  
(観察, 自己評価カード, 学習カード)  
(B) 板材の厚みや接合部分のかき方の注意点をすすんで調べようとしている。  
(A) 主体的に模型をつくり、板材の厚みや接合部分をかき理由をすすんで調べようとしている。  
(関・意・態)

<評価> 方法  
(構想図, 学習カード, 自己評価カード)  
(B) 板材の厚みや接合部分のかき方が説明できる。  
(A) 板材の厚みや接合部分をかきことで、部材や作品全体の大きさが明確になることを説明できる。  
(知識・理解)

#### (4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫

目標達成への意識付けと主体的な学習活動を図るための到達目標を記載した自己評価カードの工夫

今回授業を行った指導計画第2次の第6時から第8時までには、自分のつくりたいものを構想図に表すことを学習内容としている。そこで、この3時間を一つのまとまりとし、4観点の到達目標とその具体的なポイントを自己評価カードに記載した。授業では、到達目標と本時にかかわるポイントを示すことによって、生徒たちは具体的な課題をもち、課題解決に向けて主体的に取り組むことができた。また、自己評価においても、評価の内容や判断基準をきちんととらえることができ、客観的な評価を行うことができた。

表1は、本時第6時と第7・8時の生徒の自己評価と教師の評価をまとめたものである。生徒の自己評価と教師の評価が異なったのは、本時では関心・意欲・態度で1人、知識・理解で2人であり、第7・8時では、工夫・創意で2人、技能で1人、知識・理解で1人であった。この自己評価カードを活用し、ポイントをしばった取り組みをしたことで、生徒は、おおよそ適切に、客観的な自己評価をすることができたと考える。

図1は生徒A(33)の自己評価カードで本時の部分だけ示したものである。自己評価カードの『取り組み』

は、観点の関心・意欲・態度に対応している。生徒Aはその『取り組み』の振り返りで、「模型をくみたてた」と書き、「B」と評価した。生徒Aは、どちらかと言えば消極的

表1 自己評価カードの集計表

時	第6時(本時)				第7・8時							
	関意態		知識理解		関意態		工夫創造		技能		知識理解	
	生徒	教師	生徒	教師	生徒	教師	生徒	教師	生徒	教師	生徒	教師
1	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
2	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A
3	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
4	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
5	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
6	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
7	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	A
8	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
9	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
10	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
32	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
33	A	A	B	A	A	A	B	B	A	A	A	A
34	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A
35	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
36	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
37	A	A	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B
A計	34	35	32	32	33	33	8	10	31	30	33	32
B計	3	2	5	5	3	3	29	27	6	7	4	5

A:十分満足できる B:おおむね満足できる

製作品の設計 自己評価カード 1年 組 番 氏名				
【学習内容】B 自分でつくろうとする製作品の構想を等角図でかこう。				
学習日	取り組み	工夫しよう	できるようになろう	理解しよう
	つくろうとする製作品の構想を等角図で表示しよう。	構想したものの形が明確になるように図を工夫しよう。 <具体的なポイント> ・製作品の全体がわかりやすいように、かく方向を考える。 ・板材以外の部材や金具などがわかりやすいように、向きや形を考える。 ・製作品の外形がわかりやすいように寸法や寸法線、寸法補助線などの位置を考える。	つくろうとする製作品の構想を、接合部分や寸法を明確に表示して、等角図でかこう。 <具体的なポイント> ・板材の厚み(こぼやこぐちの面)をかく。 ・板材同士の組み合わせがわかるようにかく。 ・等角図でかく。 ・寸法数字や寸法線、寸法補助線、寸法補助記号などを正しく記入する。	構想図をかくときの注意点や寸法のかき方を理解しよう。 <具体的なポイント> ・板材の厚みや接合部分のかき方の注意点を理解する。 ・寸法数字や寸法線、寸法補助線、寸法補助記号などの記入の仕方を知る。
【私の課題】 厚みがわからなく				
	どんな取り組みだったかな 木模型をくみたてた	どんなところを工夫したかな	どんなことができるようになったかな	どんなことがわかったかな 板材の厚さが長さや製作物の大きさに関係するのかわかった。
	A・B・C	A・B・C	A・B・C	A・B・C
【課題の達成状況や疑問・質問など】 木模型をちゃんとくみたてることができた。				

図1 生徒Aの自己評価カード

であり、本時では、生徒Aも模型をつくったが、友達が模型をつくるところを見ることが多く、友達との話し合いでも発言することは少なかった。生徒Aは、知識・理解の『理解しよう』での振り返りでは、評価を「B」としたが、「板材の厚さが長さや製作物の大きさに関係するのかわかった」と書いていることから、板材の厚みや接合部分をきちんとかなければいけない理由について、十分に理解できたと考えられる。このことは生徒Aの本時の学習カードの記入の状況からも判断することができた。

到達目標を達成するための教材・教具の工夫・改善

生徒の実態からも分かるように、設計における生徒たちの生活体験は希薄であり、到達目標を達成するには、実験や体験を通して学ばせることが必要であると考えられる。そし

て、その到達目標に向けた取り組みが、学習内容の理解につながり、客観的な自己評価へとつながっていくと考える。そのために教材・教具を工夫・改善し、それらを活用してポイントをしばった授業を行った。

本時では、構想図において、板材の厚みや接合部分をきちんと表示することが必要であることを理解する授業である。生徒がかいたスケッチを見てみると、板材を立体としてとらえていないことが分かる。このため接合部分もあいまいになってしまう。そこで、実際に製作品をつくらせることによって、板材の厚みに目を向け、板材を接合することによって接合部分の様子を確認することができると考えた。しかし、時間や材料の関係から製作することは難しい。そこで、CD & MD ラックの模型を用意した。この模型は、それぞれ適した大きさに切断した板材を用意し、接合部分にマジックテープを貼り付けたものである。側板は同じ大きさのもの2枚、棚板は1枚、そして、上板と底板は棚板と同じ大きさのものをそれぞれ

1枚ずつと、板材の厚み分だけ長くしたものを1枚ずつ用意した。この7枚の板材によって、4種類の組み方ができるようにしたものである。

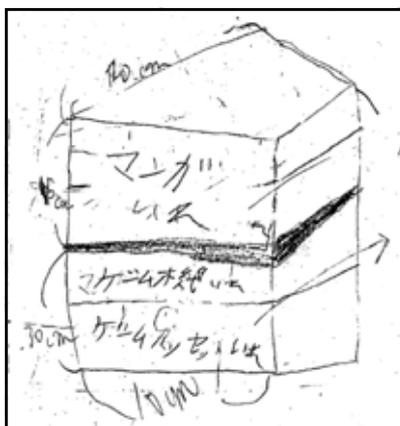


図2 生徒Aのスケッチ

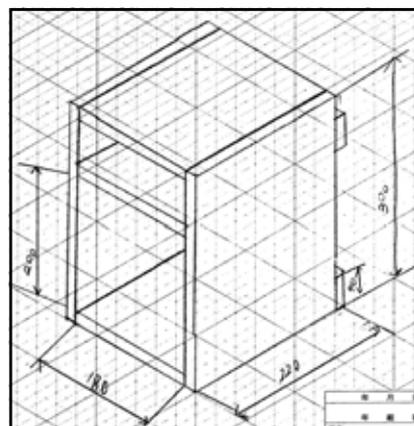


図3 生徒Aの完成した構想図

生徒たちは、板材を組み合わせて模型をつくり、その組み合わせ方を学習カードに記入することで、板材の厚みや接合部分をきちんと表示することが大切であることを理解することができた。この模型を活用することで、生徒たちは到達目標を達成することができ、その達成度も客観的に振り返ることができた。

図2は生徒Aのスケッチであり、図3は完成した構想図である。教材・教具の工夫・改善を行い、ポイントをしばった授業を行ったことで、生徒Aは到達目標を達成することができ、十分満足できる構想図をかくことができた。

#### (5) 授業研究の成果と課題

##### ア 成果

到達目標と具体的なポイントを記載した自己評価カードを活用したことで、生徒は見通しをもち、ポイントをしばった主体的な取り組みをすることができ、基礎的・基本的な知識と技術の定着につながった。

到達目標を達成するための教材・教具を工夫・改善し活用したことで、到達目標のポイントに合わせたより具体的な活動をすることができ、到達目標を達成する一助となった。

##### イ 課題

評価規準を検討し、生徒にとってより分かりやすい到達目標になるよう具体的なポイントの提示と表現方法を工夫していきたい。

【授業研究 5】 中学校第3学年「わたしたちと幼児との触れ合い」における相互評価を取り入れた「生活を工夫し創造する能力」の観点の評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

「生活を工夫し創造する能力」の観点の相互評価を工夫して授業研究を行うことで、生徒の自己評価力の向上を目指す。

題材観

少子化問題は、人口減少を懸念されるところまで深刻化している。保育に関する知識が十分に身に付いていない大人が増えたことも、原因の一つであろう。中学生のこの時期に自分がどのように育ってきたかを知り、改めて家族の在り方について考えを深めることは将来の家族像をつくりあげる上で大変意義があることと考える。

本題材では、幼児と接する機会が少ない生徒に、幼児と触れ合う体験をさせることで幼児への関心を高めていきたい。また、相互評価を取り入れることで、学んだことを生かして生活の改善を目指そうとする意欲を育てたい。

生徒の実態について

(平成19年7月3日，第3学年1組，35人)

設 問	回 答			
幼児と触れ合う機会があるか。	よくある 3人	時々 11人	ない 21人	
幼児の生活や成長に関心があるか。	かなりある 5人	ある 19人	あまりない 11人	
幼児に対するイメージ (複数回答)	かわいい 15人	元気 10人	小さい 6人	
	無邪気 5人	素直 2人	好奇心旺盛 1人	
	うるさい 7人	すぐ泣く 4人	わがまま 3人	
	甘えんぼ 2人	その他(デリケート、疲れる) 2人		
	よく寝る 2人	まだよく分かっていない 1人		
保育所訪問は楽しみか。	とても 11人	楽しみ 22人	あまり 2人	

調査の結果、これまでに「幼児の発達と家族」等の学習を進めてきたので、幼児と触れ合う機会はあまりなくても、幼児の生活や成長に関心が高まってきている様子が見える。イメージとしては、「かわいい」、「元気」といったよいものが多い一方、幼児にあまり関心がないと答えている生徒は「うるさい」、「わがまま」といった、マイナスのイメージをもっている傾向が強いことが分かった。幼児を理解し、実際に触れ合うことで、少しでも幼児への意識が変わるよう、授業方法や評価法を工夫していきたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体の手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

ゲストティーチャー(GT)の評価を含めた相互評価の工夫

評価カードの工夫

(3) 授業の実践

ア 題材名 わたしたちと幼児の触れ合い

イ 本題材の目標

幼児の生活と幼児との触れ合いに関心をもち、主体的に学習活動に取り組み、幼児と適切にかかわろうとする。  
(生活や技術への関心・意欲・態度)

幼児の生活と幼児との触れ合いについて課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造できる。(生活を工夫し創造する能力)

幼児の生活に役立つものの製作や幼児との触れ合いができる。(生活の技能)

幼児について理解を深めるとともに、幼児の生活に役立つものの製作や幼児とのかわり方に関する基礎的な知識を身に付けている。(生活や技術についての知識・理解)

ウ 本題材における評価規準<指導内容 B(5)>

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
幼児の生活と幼児との触れ合いについて関心を持ち、主体的に学習活動に取り組み、幼児と適切にかかわろうとしている。	幼児の生活と幼児との触れ合いについて課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活に役立つものの製作や幼児との触れ合いができる。	幼児について理解を深めるとともに、幼児の生活に役立つものの製作や幼児とのかわり方に関する基礎的な知識を身に付けている。

エ 指導計画(8時間)

第1次 幼児が喜ぶおもちゃを考えよう・・・・・・・・・・1時間

第2次 おもちゃの製作をしよう・・・・・・・・・・5時間(本時はその第5時)

時間	小題材名 ・主な学習活動	ね ら い	
		学習活動における具体の評価規準	評価方法
1 2 3 4	幼児が喜ぶおもちゃをつくろう ・小さい頃に遊んだおもちゃなどを参考にして、幼児が喜びそうなおもちゃを考案しよう。 ・班ごとに役割を分担し、協力しておもちゃ作りをしよう。	幼児の発達段階に応じたおもちゃについて考え、工夫しながら製作することができる。 関 - おもちゃの製作に進んで取り組むことができる。 工 - 幼児が喜びそうなおもちゃづくりの工夫をしている。 技 - 安全に留意し、幼児が喜ぶおもちゃが製作できる。	作品製作表 自己評価カード 作業の観察 作業の観察 作品 作業の観察 作品
本時	おもちゃの発表会をしよう ・自作のおもちゃを使った遊びの発表会をしよう。 ・相互評価をもとに、幼児とのかわり方を工夫しよう。	幼児との触れ合いやかかわり方について、自分なりの工夫をしたり新たな方法を考えたりすることができる。 工 - 自作のおもちゃを生かしながらどのように幼児と触れ合えばよいか考えたりしている。	活動の観察 おもちゃチェックカード (相互評価) 学習シート

第3次 つくったおもちゃで一緒に遊ぼう・・・・・・・・・・2時間

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

つくったおもちゃを生かした遊びの発表会を通して、幼児との触れ合い方やかかわり方について、自分なりの工夫をしたり、新たな方法を考えることができる。

- (イ) 本時の具体的な手立て  
 相互評価のためのおもちゃチェックカード  
 ゲストティーチャーの活用した学習形態の工夫

(ウ) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点( )と評価 努力を要する生徒への手立て( )
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <div data-bbox="237 566 746 703" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           遊びの発表会をして、幼児との触れ合い方やかかわり方を工夫しよう。         </div>		<p>本時の発表がスムーズに進められるように製作中から、実際に自分たちで遊んでみたりして、発表の仕方を考えさせておく。</p> <p>本時は遊びの発表だけでなく、自分たちが幼児役を演じることで、これまでの学習内容の確認をすることを知らせる。</p> <div data-bbox="847 725 1369 1048" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒に示す到達目標(観点)</p> <p>(B)作ったおもちゃを生かしながら、どのように幼児と触れ合えばよいか考えることができる。</p> <p>(A)どのように幼児と触れ合えばよいか具体的に考えるとができる。</p> <p style="text-align: right;">(工夫創造)</p> </div>
<p>2 グループごとに製作したおもちゃを使った遊びの発表会をする。</p> <div data-bbox="225 1227 328 1319" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">カード遊び</div> <div data-bbox="354 1227 474 1319" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">ボール遊び</div> <div data-bbox="499 1227 619 1319" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">チャンバラ遊び</div> <div data-bbox="225 1364 328 1456" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">紙芝居遊び</div> <div data-bbox="354 1364 474 1456" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">つり遊び</div> <div data-bbox="499 1364 619 1456" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 10px;">ままごと遊び</div>	<p>おもちゃの使い方を説明しおもちゃを使って遊ぶ。</p> <p>幼児役となっておもちゃを使って遊ぶ。</p> <p>おもちゃや遊び方についての相互評価をし合う。</p>	<p>おもちゃや遊びの対象年齢が近いグループ同士でペアを作り、遊びの発表をする側と幼児役を互いに交換し合う。</p> <p>発表側は、全員が役割をもてるように配慮する。特に、普段から人との会話が苦手な数名の生徒には、教師側から質問を投げかけたり助言をしたりする。また、製作中にもよさを認め、自信をもって発表ができるように助言しておく。</p> <p>幼児役の子供達には、既習事項を思い起こさせ、幼児ならどのような反応を示すかなどを考えさせる。</p>
<p>3 保育所訪問へ向けての、工夫点や改善点について、話し合う。</p> <div data-bbox="217 1688 611 1989" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div>	<p>工夫・改善点について話し合う。</p>	<p>発表をしてみたの反省を通して、次回幼児と触れ合うときにどのようにしたらよいかを話し合わせる。</p> <p>GTからの助言やおもちゃチェックカードなどを参考にしながら、具体的に話し合いができるようにする。</p> <div data-bbox="858 1868 1361 1998" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt;方法(観察, おもちゃチェックカード, 学習シート)</p> <p>(B)作ったおもちゃを生かしながら、どの</p> </div>

<p>4 本時の学習の評価をする。</p>	<p>学習を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>ように幼児と触れ合えばよいか考えたりしている。  (A)どのように幼児と触れ合えばよいか具体的に考えたりしている。  (工夫創造)</p> <p>次時は、保育所へ行って実際に幼児と触れ合うことを告げ、爪を切っておくなどの準備もしておくように指導する。</p>
-----------------------	-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### (4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫（評価場面や評価方法の工夫）

##### 相互評価の工夫について

本時は、相手グループに幼児役になってもらい、自作のおもちゃを使って遊んでもらうという学習活動を取り入れた。おもちゃを考案する時点で幼児の特性や発達段階について十分に検討し、製作計画を立てていることに合わせ、製作中も班のメンバー同士で試しに遊んでみたりしているの、あまり改善点やさらなる工夫点は出てこないということも考えられた。

しかし、単に作ったおもちゃを観察するだけでなく、評価の観点をはっきりさせた上で、幼児になったつもりで遊ぶことで、もっとおもしろく、分かりやすく、楽しくするためにはどうしたらよいかを客観的に考えることができ、思っていた以上の工夫点や改善点が出された。

また、日頃から幼児と直接かかわっているゲストティーチャーからは、生徒が気づきにくい安全対策や遊ばせ方の工夫などについてのアドバイスがもらうことができた。おもちゃをより安全で楽しくするための工夫を考えるために大変有効であった。

これらのことから、相互評価を効果的に行うには、製作の場面から達成目標を明確にしておくこと、評価の観点を分かりやすいことばで明示することが大切であると言える。



幼児役の生徒に対しておもちゃの発表をしている様子

##### 評価カードの工夫について

##### ア 相互評価カード（おもちゃのチェックカード）

今回の活動では、図1に示すように3段階の評価とともに、一言アドバイスのコーナーを設けた。おもちゃそのものの評価だけでなく、楽しく遊ぶための工夫についても観点に加えたため、発表後の話し合いでは、幼児とどのようにかかわったらよいか、

おもちゃをどのように改善したらよいかを具体的に考える際に活用することができた。

また、評価側も単に点をつけるのではなく、アドバイスも書き加えるため、生徒の中におのずと評価の判断基準ができ、自己評価力を高めるためにも効果的であった。

#### イ 自己評価カード

授業の最後に行う自己評価では当初、授業の目標にない項目を盛り込んだ上、評価の観点も明らかにしていなかったため、あいまいな自己評価となってしまった(図2)。

そこで、目標に対し図1 おもちゃのチェックカード  
 応じた自己評価に項目を絞り、評価の観点を示した評価カードに修正したところ、「こうだったからここだ」と自分で判断しながら評価することができた(図3)。

生徒の評価と教師側から見た評価とが一致するものが多くなり自己評価力が高まったと考えられる。

#### (5) 授業研究の成果と課題

##### ア 成果

これまでの授業では、おもちゃを作った後、班ごとに簡単な打ち合わせを行なっただけで、保育所訪問に行っていた。今回、おもちゃの発表会を行なったから保育所訪問を行ったところ、これまでよりも積極的に幼児とかかわろう

**おもちゃチェックカード**

3年1組

幼児になったつもりで、遊びながら、おもちゃのチェックをしてみよう。  
 幼児の世話をする立場になったつもりで、おもちゃのチェックをしてみよう。

おもちゃの名前	チャンバラ
---------	-------

チェック項目	評 価	アドバイスを一言
1 幼児の発達段階に合っていますか。	1・2・③	もっと悪い役(かいじゅう)になって相手をしてあげると良かったです。
2 安全ですか。	1・②・3	ほとんど大丈夫でしたが、少し固いものもありました。
3 じょうぶですか。	1・②・3	いぼいぼ遊んだら壊れちゃいそうでした。
4 色彩はきれいですか。	1・2・③	青いのと赤いのがあって、それが良かったです。
5 楽しく遊ぶための工夫がされていますか。	1・2・③	ダンボールの防ぎをするのがあって良かったです。

どんなところがよかったか、どう工夫するとよいと思うか書いてみよう。

図1 おもちゃのチェックカード

1 チームで協力し合って発表ができましたか。	
2 幼児になったつもりで遊ぶことができましたか。	
3 相手チームにしっかりアドバイスができましたか。	
4 アドバイスを生かして、遊び方を工夫することができましたか。	

図2 自己評価カード

とする生徒が多く見られた。互いに幼児役になって、おもちゃの説明をしたり、かかわり方について考えさせたりしたことで、自信をもって幼児と接することができたようである。

また、相互評価をしたことで、班のメンバーだけでは気付かなかった工夫ができたことも成果である。相互評価を

今日の授業を振り返って		
項 目	評 価	ひ と こと
○自作のおもちゃを使って、どのように幼児とかかわればよいか、具体的に考えることができた。	○	幼児はおそろしくはたはたの使い方が分からないと思うので、まず1つをのこして全部壊して1つづつやり方を説明してから遊ばせたい。
○自作のおもちゃを使って、どのように幼児とかかわればよいか、考えることができた。		
○自作のおもちゃをどのように使えばよいか考えることができなかった。		

図3 改訂自己評価カード

すると、客観的に見る力が磨かれ、自然に自己評価力も向上することが分かった。また、評価をしたら生徒に返すということが、生徒にとって自分の状況を正しく把握し、適切な修正や改善を加えながら成長することに役立つということが実感できた。

## イ 課題

教師は、授業の最後に形式的に評価活動を取り入れていることが多い。しかし、ねらいに即していなかったり、評価の観点がはっきり分からなかったりする項目があることも事実である。本研究に携わるようになって、評価の妥当性、客観性をもたせるためには評価規準、評価方法の検討はもとより、評価カードに書かれる言葉の一つ一つがどれほど大切なものが改めて意識できた。

本研究でも、初年度は評価項目についての検討が足らなかったために、ねらいに近づけるための自己評価カードにならなかつたという大きな反省点が残った。今後、新中学校学習指導要領に即した指導計画作り、教材研究とやらなければならないことは山積みであるが、子どもたちが「分かる・できる喜び」を味わうことができる授業の展開に努めたい。また、次の指導や学習に生きる評価の在り方についての研究を深めていきたい。

【授業研究6】 中学校第3学年「幼児の発達と家族のかかわり」における学習シートや評価カードを活用した評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

自己評価に生かせる学習シートの作成や活用の仕方を工夫したり、判断基準を明確にした評価カードを用いたりして、授業研究を行うことで自己評価力の向上を目指す。

題材観

現代では核家族化や少子化が進むにつれ、家族関係が希薄になってきている。健やかな子どもを育てていくために、まず生活の基盤となる家庭の在り方について学ぶことは大切である。今後の社会を担い、やがては家族を形成していく立場になる中学生に、幼児についての理解を深めさせ、よりよく幼児とかかわっていきこうとする態度を育てていきたい。

生徒の実態について

(平成20年6月19日実施、第3学年2組、38人)

設 問	回 答
身近に幼児がいますか。	いる 20人(近所、親戚、兄弟) いない 18人
幼児が好きですか。	好き 28人(かわいいから21人 楽しいから3人 おもしろいから2人 その他2人) 好きではない 10人(うるさいから7人 泣くから2人 接し方が分からない1人)
中学生になって、幼児とかかわったことがありますか。	ある 24人 ない 14人
そばで、見知らぬ幼児が泣いていたらどうしますか。(複数回答)	声をかける 16人 親や大人を捜す 10人 見ぬふりをする 9人 あやす 5人 見ている 2人

実態調査の結果から、身近に幼児がいるという生徒は約半数であるが、幼児が好きであるという生徒は多い。かかわりについては、見知らぬ幼児が泣いていたら「声をかける」という生徒もいるが、「見ぬふりをする」や「見ている」といった生徒も多く、具体的なかかわり方が分からない様子が見られる。そのような生徒の実態を踏まえ、体験や実習を取り入れたりゲストティーチャーを活用したりしながら、幼児を理解し進んでよりよくかかわろうとする態度を育てていきたい。評価に当たっては、学習シートや評価カードの形式や活用の仕方を工夫し、学びを積み重ねていながら自己評価力も高められるようにしていきたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

自己評価に生かせる学習シートの作成や活用の工夫

自己評価力を高める評価カードの工夫

(3) 授業の実践

ア 題材名 幼児の発達と家族のかかわり

イ 本題材の目標

自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて、関心をもって学習活動に取り組んでいる。(生活や技術への関心・意欲・態度)

幼児や幼児との触れ合いに関心を持ち、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考え、幼児と適切にかかわろうとする。(生活や技術への関心・意欲・態度)

幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわり、また幼児との触れ合いについて課題を見付け、その解決を目指して工夫することができる。(生活を工夫し創造する能力)

幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて、観察したり調査したりすること、

及び幼児の生活に役立つものを製作したり，幼児と触れ合ったりすることができる。  
 (生活の技能)

自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて気付いている。

(生活や技術についての知識・理解)

幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関することについて，理解することができる。  
 (生活や技術についての知識・理解)

ウ 本題材における評価規準<指導内容 B(1)(2)(5)>

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて，関心をもって学習活動に取り組んでいる。 幼児や幼児との触れ合いに関心をもち，幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考え，適切にかかわろうとしている。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわり，また幼児との触れ合いについて課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて，観察したり調査したりすること，及び幼児の生活に役立つものを製作したり，幼児と触れ合ったりすることができる。	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて気付いている。 幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。

エ 指導計画(18時間)

第1次 自分の生い立ちを知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第2次 幼児の発達を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間(本時はその第4時)

時間	小題材名 ・主な学習活動	ねらい	評価方法
		学習活動における具体の評価規準	
1	幼児のからだの発達を知ろう ・幼児服と身体の特徴との関連を調べる。 ・幼児の運動機能の発達の特徴を調べる。	幼児の身体や運動機能の発達の特徴について理解することができる。 知 - 幼児の身体や運動機能の発達の特徴について調べ，概要について理解している。	観察 自己評価カード
2	幼児の心の発達を知ろう ・情緒，社会性，ことばの発達の様子を調べる。 ・幼児の心の発達のために家族や周囲の人がどのようにかかわるとよいか考える。	幼児期の心の成長の様子や，豊かな心を育成するための家族や周囲の人のかかわり方について，理解することができる。 知 - 幼児期の心の成長の様子を知り，家族や周囲の人の基本的なかわり方について理解している。	観察 自己評価カード
3 本時	幼児の生活習慣が身に付くための家族のかかわり方を考えよう ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣について知る。 ・ロールプレイングを通して，幼児へのかかわり方を考え，工夫する。	幼児に必要な生活習慣を知り，それらを身に付けさせるための家族のかかわり方について考え，接し方や言葉かけを工夫することができる。 知 - 幼児期に身に付ける生活習慣について理解している。 工 - 幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方について考え，接し方や言葉かけを工夫している。	観察 自己評価カード 学習シート 自己評価カード

第3次 幼児と触れ合おう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

第4次 幼児の遊びを知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第5次 幼児の生活に役立つものを製作しよう・・・5時間

第6次 幼児の成長と家族のかかわりについて考えよう・・・1時間

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方について考え、接し方や言葉かけを工夫することができる。

(イ) 本時の具体的な手立て

ゲストティーチャー（保育士）の活用と相互評価の方法の工夫

自己評価に生かせる学習シートの構成や活用の工夫

判断基準を明確にした自己評価カードの工夫

(ウ) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の反応	指導上の留意点( )と評価 努力を要する生徒への手立て( )
<p>1 本時の学習課題と到達目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     幼児の生活習慣が身に付くための 家族のかかわり方を工夫しよう                 </div>	<p>1 目標の到達を目指そう。</p>	<p>導入として、しつけをした時の親の苦労や工夫についての保護者アンケート結果を提示する。</p> <p>到達目標を示し、意欲付けをする。</p>
<p>2 幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方について話し合う。</p> <p>(1) 前時にグループごとに作成したシナリオをもとに、ロールプレイングをする。</p> <p>ア 基本的な生活習慣チーム おもちゃの片付けをしない場面</p> <p>イ 社会的な生活習慣チーム おもちゃを取り合う場面</p> <p>(2) 発表し合い、相互評価をする。 よい点 アドバイス</p> <p>(3) 相互評価をもとに再びグループで話し合い、よりよいかかわり方を考える。</p>	<p>2 家族のかかわり方を考えよう。</p> <p>(1) シナリオに沿ってロールプレイングしよう。</p> <p>ア・片付けなさい。 ・片づけないとおもちゃを捨ててしまうよ。</p> <p>イ・人のものを取ってはだめ。 ・お友達と仲良く遊ぼうね。</p> <p>(2) 他の班はどうだろう。 ・分かりやすく教えている ・もっと優しい言葉で。 ・できたことをほめるとよい。</p> <p>(3) 言い方をもっと工夫しよう。 ・お母さんと一緒にやろう。 ・上手によくできたね。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                 生徒に示す到達目標（観点）                  (B) 幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方について考え、接し方や言葉かけを工夫することができる。                  (A) 幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方について考え、よりよい接し方や言葉かけを具体的に工夫することができる。                  (工夫創造)             </div> <p>幼児、中学生、両親、祖父母から一人一役で演じるようにする。</p> <p>それぞれの家族の立場や気持ちを考えて接し方や言葉かけを工夫できるようにする。</p> <p>グループの活動に参加しにくい生徒は、教師やゲストティーチャーが個別に支援・助言する。</p> <p>ア・イの2チームに分かれて発表し合い、他のグループの発表について気付いたことを付箋紙に書き、交換し合う。</p> <p>いろいろな幼児へのかかわり方があることに気付くようにする。</p> <p>ゲストティーチャーにもよい点やアドバイスを付せん紙に具体的に書いてもらい、参考にする。</p> <p>具体的な工夫が見られるグループの発表を聞き、よりよいかかわり方の概念化を図る。</p> <p>グループの活動を生かし、言葉を吟味しながら一人一人がかかわり方を工夫できるよ</p>
<p>3 別の場面について、一人一人シナリオを考え、発表する。</p>	<p>3 よりよい言葉を工夫しよう。</p>	<p>グループの活動を生かし、言葉を吟味しながら一人一人がかかわり方を工夫できるよ</p>





図4は判断基準を明記した自己評価カードである。しかし、この文言だけでは具体性に欠けるところがあり、生徒により分かりやすくするために、で述べたように生徒のシナリオから工夫点のキーワードを引き出し、そのような工夫がどの程度みられたかによって判断できるようにした。また「自己アピール」欄を設け、工夫したことを自分の言葉で具体的に表記することで学習したことを確認できるようにするとともに、教師側も生徒一人一人の到達度を把握しやすいようにした。

観点	評価の基準	評価	自己アピール！
工夫創造	幼児に生活習慣を身に付けさせるための家族のかかわり方を考え・・・	B	取組比 子供にきちんとした教育をさせるために必要なことは、理由のほうをせりふを言うようにした。グループでアドバイスをもらって良かった。子どもと納得できる環境も考えた。
	自分なりに話し方や言葉かけを工夫することができた。(B)		
今日の学習は？	忘れ物なし・忘れ物有り( )	A	師範研修 忘れ物もなく、先生で友達の話とららんとした。 ひなことと工夫執筆はかかグループで話し合うことができました。
	先生や友達の話に熱心に聞いた。	A	
	熱心なやり取りができた。	A	
	進んで学んだ。( )	( )	

図4 自己評価カード

するとともに、教師側も生徒一人一人の到達度を把握しやすいようにした。

表1 生徒の評価と教師の評価の比較 「工夫創造」 (第3学年2組, 38人)(単位:人)

	生徒の自己評価	教師の評価	生徒と教師の評価の一致	生徒と教師の評価の不一致
A	12	19	10	生徒はA,教師はB... 2 教師はC... 0
B	25	17	14	生徒はB,教師はA... 9 教師はC... 2
C	1	2	0	生徒はC,教師はA... 0 教師はB... 1
計	38	38	24	14

自己評価はこれまでは「十分満足できる」(A)の状況と判断する生徒が多かったが、表1を見ると、判断基準を明確にしたことで厳しい目で自己評価したことが分かる。後日、教師の評価を記入して学習シートを返却し、生徒と教師の評価が一致しなかった生徒には、教師がなぜその評価にしたのかを個人的に説明した。これを毎時間繰り返すことで、生徒は適性に自己評価する力が育つのではないかと考えた。

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

発表後、相互評価やゲストティーチャーのアドバイスを取り入れたことで、グループのシナリオの工夫改善に生かすことができた。また、ゲストティーチャーと事前によく打ち合わせをしておくことで、生徒により適切なアドバイスを与えることができた。グループの学び合い(習得)から個人の学び(活用)へと発展させる学習シートを工夫したことで、生徒の思考力の高まりや学習の深まりにつながった。さらにそれを自己評価に生かすことで、学習の到達度が把握しやすくなった。

自己評価の基準を明確にしたことで、生徒はより適性に評価しやすく、教師側も生徒一人一人の到達度を把握する上で効果的であった。

イ 課題

学び合いの場面におけるより効果的な相互評価の工夫

生徒に示す到達目標や判断基準の文言の吟味や提示の仕方の工夫

【授業研究 7】 高等学校第2学年 家庭基礎「何をどれだけどのように食べたらよいか」  
におけるパソコンとワークシートを用いた問題解決的な学習の評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

判断基準を設定し到達目標を提示して、振り返りの場面に教材・教具(パソコンやワークシート)を用いて授業研究を行うことで、評価を指導改善に生かす。

題材観

食生活を健康で安全に営むために、必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせ、家庭の食習慣について課題を見付け、個々の家庭に応じた課題解決が図れるように、生徒一人一人が「食の自立」を実現できる力を身に付ける授業を目指す。

生徒の実態について

表1 生徒の実態について

(平成19年7月17日(火)実施, 第2学年, 194人)

質問事項	回答	%	質問事項	回答	%
家で食事を作ることがありますか。	よくする	10	食事のときどんなこと気をつけていますか。(複数回答)	味付け	44
	時々(週に1回程度)	17		栄養	24
	たまにする(月1回程度)	31		食品の表示	8
	ほとんどしない	41		衛生	24
朝食は、主に誰と一緒に食事をしますか。	家族	28	昼食は、どんなものを持ってきましたか。	母親が作った弁当	87
	父親	5		自分で作った弁当	5
	母親	12		コンビニ弁当	4
	兄弟姉妹	13		カップラーメン	0
	一人	38		パン	4
	食べない	4		食べない	0
夕食は、主に誰と一緒に食事をしますか。	家族	62	家で献立を立てていますか。	毎日立てる	7
	父親	1		時々立てる	14
	母親	9		ほとんど立てない	32
	兄弟姉妹	5		立てたことがない	47
	一人	21			
	食べない	2			

アンケートの結果(表1)を考察すると、朝食・お弁当・夕食いずれも食事を「食べない」と回答した生徒が、0～4%であることから、食事の摂取状況がよいことが分かる。毎食きちんと食べているにもかかわらず、家での食事作りについて「よくする」と「週に1回程度」と答えた生徒が27%であることから、ほとんどの生徒が食事内容については親任せであることがわかる。昼食は、「親の作った弁当を持参する」生徒が87%と高いことから、保護者の食に関する意識の高さがうかがえる。「食事の時家族が全員揃う」のは朝食で28%、夕食で62%と回答していることから、家族全員が揃いにくい傾向であることがうかがえる。また、毎日食事を作っているにもかかわらず、79%の家庭が献立を「ほとんど立てない」「立てたことがない」と回答していることから、献立に関しては関心が低いことが分かる。

これらのデータから、生徒の食生活の現状をまとめると、食事の摂取状況はよい。食事内容は親任せである。保護者の食に関する意識は高い。家族そろっての食事ができにくい。献立に関して、摂取基準・栄養計算に基づく栄養管理の意識が低い。

以上のことをふまえて、生徒一人一人が「食の自立」に関心を持ち(アンケート結果)、家庭の食事の傾向を知り(アンケート結果)、個々の家庭に応じた問題解決がはかれるように、家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けさせ、家族の食生活について課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めさせたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手立て(これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫)

判断基準の設定や到達目標の提示

振り返りの場面の教材・教具(パソコンやワークシート)を用いた評価と指導改善

・ワークシートと学習ノートによる振り返り

学習のポイントとなる内容をパソコンでシュミレーションして、キーワードをワークシートに記入させる。各シートごとに内容を振り返り、理解できたかどうか確認させる。授業の最後に結果を1枚のシートに転記して、授業の理解度を確認させる。

・パソコンを媒体とした学習の振り返り

パソコンにデータを入力する過程で、理解度を確認させる。また、打ち出されたデータを分析して、課題解決のために結果を家庭生活にフィードバックしていく際の創意工夫と取り組み状況を自己評価させる。

(3) 授業の実践

ア 題材名 「何をどれだけどのように食べたらよいか」

イ 本題材の目標

栄養，献立作成などに関心をもたせ，意欲をもって学習活動に取り組みさせる。

(関心・意欲・態度)

家族の食生活について課題を見付けさせ，その解決を目指して思考を深めさせる。

(思考・判断)

家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。

(技能・表現)

栄養，献立作成などについて理解させ，家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

(知識・理解)

ウ 本題材における評価規準 <指導内容(2)ア>

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養，献立作成などに関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家族の食生活について課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	栄養，献立作成などについて理解し，家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

エ 指導計画(5時間)

何をどれだけどのように食べたらよいか(5時間)

(ア) 健康は食生活の改善から . . . . . 1時間

(イ) 献立の立て方 . . . . . 4時間(本時はその第1時)

時間	小 題 材 主な学習内容	ね ら い	評価方法
		学習活動における具体の評価規準	
本 時	献立の立て方 献立作成のチェックポイントを知ろう。	個人の食品群別摂取量のめやすを理解させ，献立を考えさせる。 知 - 家族の食品摂取量のめやすの把握の仕方がわかる。 献立作成の手順がわかる。	観 察 ワークシート 学習ノート
	1日の家族の 献立を立てて	家族の朝・昼・夕の1日の献立を計画させる。 思 - 栄養的にバランスの取れた食事について家族の食事の特徴と関	観 察

	みよう。	連付けて具体的に考えている。 技 - 自分の家族の特徴を考えた家族の1日の栄養摂取量を満たす献立作成ができる。	献立表
1	ソフトを使って献立を評価してみよう。	パソコンソフトを使って栄養価を計算させる。 関 - 各家庭の1週間の食事調査をして、その課題を解決しようとする。 技 - 栄養計算ソフトを利用して、バランスのよい献立作成ができる。	調査用紙 栄養計算表
1	生活を改善する具体策を考えてみよう。	家族が毎日栄養を意識した食生活を送れるように啓発カードを作り、各家庭の台所に設置して活用させ、効果を観察させる。 関 - 各家庭の課題を把握して、カード作りに取り組んでいる。 思 - 各家庭の問題点に合わせて具体策を考えている。	分析カード 自己評価表

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

- ・「食事摂取基準」と「食品群別摂取量のめやす」を使った献立の立て方の違いを理解させる。
- ・健康な生活を送るために必要な栄養素量と適量の食品を知らせ、それを使って「一汁三菜」の献立の構成を考えさせる。



図1 授業風景

(イ) 本時の具体的な手立て

- ・スライド(図1)をみて、要点をワークシートに書き込みながら学習をする。
- ・学習内容の区切りごとに自己評価をする。

(ウ) 本時における判断基準(知識・理解)

学習内容	判断基準	C	B	A
家族の食品摂取量のめやすの把握の仕方がわかる。		年齢別の食品摂取量のめやすの見方が分からない。	年齢別の食品摂取量のめやすの見方がわかる。	年齢別の食品摂取量のめやすの見方が理解でき、家族の平均値を出すことができる。
献立作成の手順がわかる。		主食・主菜・副菜等の理解ができない。	「一汁三菜」の食事形式の献立作成の手順がわかる。	「一汁三菜」の献立作成ができる。さらに、いろいろなバリエーションを考えられる。

(エ) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点( )と評価 努力を要する状況が予想される生徒への手立て( )
1 本時の学習課題と到達目標を確認する。		前時の学習をふり返らせ、家族の特徴を考えた献立作成のポイントを知らせる。 献立作成に手順があることを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取基準と食品群別摂取量のめやすを知ろう。</li> <li>・「一汁三菜」の献立の立て方、家族の特徴を考えた献立作成のチェックポイントを知ろう。</li> </ul> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           生徒に示す到達目標(観点)            (B) 年齢別の食品摂取量のめやすの見方がわかる。            「一汁三菜」の食事形式の献立作成の手順がわかる。            (A) 年齢別の食品摂取量のめやすの見方が理解でき、家族の平均値を出すことができる。         </div>

<p>2 家族全体の食品摂取量を合計・平均値を出す。</p> <p>3 食品群別摂取量のめやすを記入する。</p> <p>4 家族の栄養的特徴と献立作成上の配慮について調べる。</p> <p>5 献立作成の手順を理解する。</p> <p>6 「一汁三菜」の献立を作る。</p> <p>7 本時の学習のまとめをする。</p> <p>8 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>9 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>家族の1日に必要な食事摂取量を計算する。</p> <p>家族の食品群別摂取量のめやすを記入し計算する。</p> <p>家族の栄養的特徴と献立作成上の配慮について調べて記入する。</p> <p>主食・主菜・副菜・汁物・副々菜を考える。</p> <p>「一汁三菜」の献立をの料理名を考えて図示する。</p> <p>学習内容を確認する。</p> <p>献立作成上食品群別摂取量のめやすの役割を理解し、献立を考えられたか振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「一汁三菜」の献立作成ができる。さらに、いろいろなバリエーションを考えられる。</p> </div> <p>想定家族の食事摂取基準を記したものを配布する。</p> <p>食事摂取基準の表の見方の不明な点を一人ずつ机間指導して理解させる。</p> <p>家族の食品群別摂取量の説明をする。</p> <p>食品群別摂取量の表の見方の不明な点を一人ずつ机間巡視して理解させる。</p> <p>家族の食品群別摂取量の平均値を出させる。</p> <p>家族の栄養的特徴と献立作成上の配慮に関する資料を確認させる。</p> <p>主食・主菜・副菜・汁物・副々菜等の説明をする。</p> <p>主食・主菜・副菜・汁物・副々菜等の図を確認させる。</p> <p>主食・主菜等の具体例がわからない生徒に、写真を使ってで分類方法を理解させる。</p> <p>食品群別摂取量のめやすを理解できたか。</p> <p>献立の作成手順を理解できたか。</p> <p>自分の学習を振り返り、ワークシートに記入するポイントを示し、次の学習への意欲を促したい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 方法(観察,ワークシート,学習ノート)</p> <p>(B) 年齢別の食品摂取量のめやすの見方がわかる。</p> <p>「一汁三菜」の食事形式の献立作成の手順がわかる。</p> <p>(A) 年齢別の食品摂取量のめやすの見方が理解でき、家族の平均値を出すことができる。</p> <p>「一汁三菜」の献立作成ができる。さらに、いろいろなバリエーションを考えられる。(知識・理解)</p> </div>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### (4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫 (評価場面や評価方法の工夫)

判断基準の設定や到達目標の提示

判断基準の設定を行い、本時の到達目標を導入時に提示したことは、教師の指導内容が明確になるとともに、生徒の学習目的をはっきりさせ学習意欲を高める結果となった。

振り返りの場面の教材・教具(パソコンやワークシート)を用いた評価と指導改善

ア ワークシートと学習ノートによる振り返り

- ・食事摂取基準と食品群別摂取量の考え方をパソコンでシュミレーションした上で、ワークシート(図2)にキーワードを記入させながら内容を確認させた。内容が理解

できたかどうかスライドごとに簡単にチェックさせておき、授業の最後で1枚のシートに転記させ、授業全体の理解度を確認させた。

- ・机間指導しながら、「わからなかった。」と答えている箇所を確認し、簡単な内容はその場で説明し、難解なところは次時まで解説の方法を工夫しておいて、「前時の学習の振り返り」で解説することができた。
- ・回収したシートを分析(表2)すると、学習内容で生徒がつまずきやすいところを知ることができ、教材研究に役立たせることができた。

イ パソコンを媒体とした学習の振り返り

- ・パソコンで栄養分析(図3)した結果を利用して、栄養バランスを意識した栄養管理ができるように実習をさせた。入力の作業状況を通して理解



図2 ワークシート例

表2 ワークシートにより理解度分析

(平成19年9月27日(木)実施, 2年4組42人)



しているかどうか確認し、つまずきは  
その場で修正することができた。

- ・各家庭の1週間の食事記録を調査分析させて、啓発カード(図4)を作らせた。グラフを見てアドバイスが記入できれば栄養状態を判断できたことになる。そのカードを家庭に反映させ、家庭で

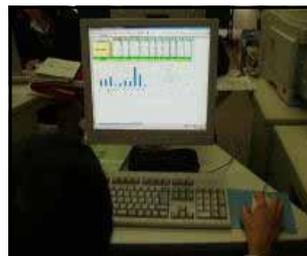


図3 栄養分析の様子



図4 啓発カードの利用例

の問題解決の学習活動に発展させることができた。

## (5) 授業研究の成果と課題

### ア 成果

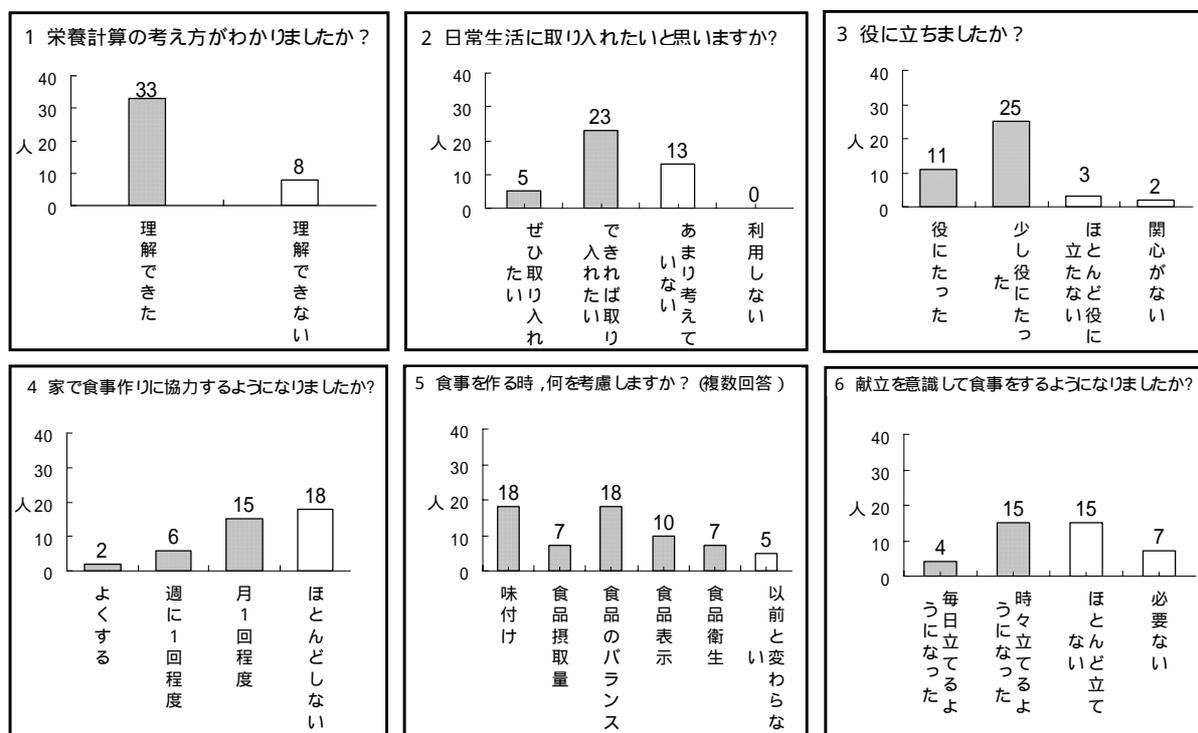


図5 授業終了後のアンケート結果

判断基準の設定を行い、本時の到達目標を導入時に提示したことは、教師の指導内容が明確になるとともに、生徒の学習目的をはっきりさせ学習意欲を高める結果(図5の1, 2, 3)となった。

スライドに対応したワークシートで、スライドごとに理解できたかどうか評価したため、生徒は自分で理解できないところが分かり、指導する側もポイントを絞って指導することができた。結果的に、できないところを放置せずに次の作業に進ませることができた。

調査の際、家庭の協力を依頼し、家庭での1週間の食事記録を取ることで、啓発活動に結びつけることができた。分析結果から、家庭の食事傾向を確認(図5の4, 5, 6)させることができた。さらに、栄養分析で偏りがある場合、その対処の仕方を学ばせることもできた。

### イ 課題

講義を中心とした授業を行う場合も、つまづきを見逃さず、時間内に対応ができるようなチェック機能をもった教材の工夫をしたい。

問題解決的な学習は、授業内容と家庭生活を連携させて、家族とともに「食の自立」に向けて創意工夫している生徒の活動を自己評価できる教材の工夫をしたい。

【授業研究 8】 高等学校第 1 学年 家庭総合「食生活の管理『安全な食生活』」における  
場面設定を取り入れた題材の指導と評価の工夫

(1) 研究のねらい

授業研究のねらい

判断基準を設定し到達目標を提示して、実物等を用いた学習指導の工夫改善を図り授業研究を行うことで、到達目標の達成を目指す。

題材観

BSE（牛海綿状脳症）の発生以降、産地や期限表示の改ざん、老舗ブランドの食材の偽装発覚等々「食」に対する信頼を揺るがす出来事が相次いでいる。また、日本の食糧自給率はエネルギー換算で約40%を割る状況である。食生活環境の変化や食生活の安全について考えさせ、健康や安全に配慮した食生活の管理ができるようにする。

生徒の実態について

表1 授業前の生徒の実態について

アンケートの結果（表 1）を考察すると、生徒たちが飲食料品を購入する場所はコンビニエンスストアが49人と一番多く、小売店での購入はわずか2人であった。商品を購入する際58人の生徒が価格を基準に選択し、表示やマークを確認して購入している生徒は22人であった。また、「茨城県産の食材」を意識して購入している生徒は7人と「地産地消」に対する関心の低さが伺える。これらのことから、食品を選ぶとき「値段が手ごろ」で「おいしそう」ということだけで、食品の選択・購入を考えるのではなく、食生活の安全や環境・資源に大きく関わっていることを理解させたい。

平成 20 年 6 月 5 日 (木) 第 1 学年 62 人

質問事項	回答	人
飲食料品を購入する場所 (複数回答)	コンビニ	49
	スーパー	41
	小売店	2
	自動販売機	27
購入時に注目する事項 (複数回答)	価格	58
	広告	11
	栄養	3
	安全性	25
	季節のもの	2
	味	9
	容器包装	4
	鮮度	8
	おまけ	8
購入時に表示やマークを確認している	確認している	22
	確認していない	40
茨城の食材を購入している	積極的に購入	0
	できるだけ購入	7
	わからない	37
	購入していない	18

ということだけで、食品の選択・購入を考えるのではなく、食生活の安全や環境・資源に大きく関わっていることを理解させたい。

(2) 授業研究のねらいに迫るための具体的手立て（これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫）

判断基準の設定や到達目標の提示

到達目標を達成するための学習活動の工夫

・生鮮食料品の実物提示による確認

生鮮食品と加工食品の特徴について確認をする。新鮮なもの、安全なものなどを見ただ目で選ぶポイントを学習し、また、見た目だけでは分からないものがあることを認識し、品質表示の必要性を確認する。

・各自が持参した品質表示による情報の収集

授業前に準備しておいた品質表示をワークシートに貼り付けさせ、その表示からどのような情報が分かるか確認をする。

名称	製造者	内容量(g)	原材料	アレルギーへの対応	食品添加物
期限表示	その他の情報（遺伝子組み換え等・品質保証マーク）				栄養表示

- ・ 4種類準備した食品の模擬選択購入の体験  
品質表示の学習を経て、実際に食品を選択する体験を通し何を基準に食品を選んだかを振り返らせ確認する。

(3) 授業の実践

ア 題材名 安全な食生活を送るために

イ 本題材の目標

栄養，食品，調理，食品衛生などに関心をもたせ，意欲的に学習活動に取り組みさせる。  
(関心・意欲・態度)

家族の食生活について課題を見付けさせ，その解決を目指して思考を深めさせる。  
(思考・判断)

家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。  
(技能・表現)

栄養，食品，調理，食品衛生などについて理解させ，家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。  
(知識・理解)

ウ 本題材における評価規準 <指導内容(4)ア>

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養，食品，調理，食品衛生などに関心をもち，意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家族の食生活について課題を見付け，その解決を目指して思考を深めている。	家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	栄養，食品，調理，食品衛生などについて理解し，家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

エ 指導計画 (10時間)

- 第1次 健康な食生活を実践するために・・・1時間
- 第2次 「食事摂取規準」と「食品群別摂取量のめやす」・・・2時間
- 第3次 家族の食事計画・・・4時間
- 第4次 安全な食生活を送るために・・・5時間(本時はその第2時)

時間	小題材・主な学習内容	ねらい	評価方法
		学習活動における具体的評価規準	
本時	食品の選択と取り扱いを知ろう。	品質表示を使って食品の情報を読み取ろう。 知 - 食品の選択と購入について理解している。食品の保存・管理について理解する。 環境に配慮した食品の選択について理解している。	観察 品質表示 ワークシート
3	食品の衛生と安全について知ろう。	食品の安全性に関する正しい知識を身につけよう。 技 - 食中毒の原因・予防について知り，食品を衛生的に取り扱うことができる。 思 - 食品添加物については実験により理解し，食生活と関連させて食品購入を考えている。	実験 ワークシート

- 第5次 食事をつくる(ホームプロジェクト)・・・1時間  
夏休みに食品を選択し購入の後，食事作りを実践する

オ 本時の学習指導

(ア) 本時の目標

食品情報のあふれる中で購買意欲をかきたてる食品が出回っている。宣伝文句や見た目  
に惑わされず，自分の健康を守るために品質表示を読みとる力をつけ，よりよい食品選択  
や購入能力を養う。購入した食品はその食品に適した保存方法があることを理解させ，日  
常生活に役立たせる。また，環境に配慮した食品選択について考えさせる。

(イ) 本時の具体的な手立て

判断基準の設定や到達目標の提示

到達目標を達成するための学習活動の工夫

- ・ 生鮮食品の実物提示による学習
- ・ 各自が持参した品質表示から読みとれる情報の確認
- ・ 同種の食品を比較し選択購入の実際を体験

(ウ) 本題材における判断基準（知識・理解）

学習内容 \ 判断基準	C	B	A
食品の選択と購入 について理解して いる。	生鮮食品の鮮度の見分 け方や食品の品質表示 の見方が分からない。	生鮮食品の鮮度の見分 け方や，食品の品質表 示の見方がおおよそ分 かる。	生鮮食品の鮮度の見分 け方，食品の品質表示の 見方が分かる。
食品の保存・管理 について理解して いる。	食品に適した保存の方 法や管理の方法が分か らない。	食品に適した保存の方 法や管理の方法がおお よそ分かる。	食品に適した保存の方 法や管理の方法が分か る。
環境に配慮した食 品の選択について 理解している。	地産地消・フードマイ レージや食品容器包装 廃棄物と食品購入との 関係が分からない。	地産地消・フードマイ レージや食品容器包装 廃棄物と食品購入との 関係が分かる。	地産地消・フードマイ レージや食品容器包装 廃棄物を考えた食品購 入の仕方が分かる。

(I) 展開

学習活動及び内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点( )と評価 努力を要する生徒への手立て( )
1 本時の学習課題と到達目標を 確認する。		前時の学習を振り返らせる。 アンケート結果について触れる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質表示を読み取る力をつけ，食品選択・購入ができるよ うになるう。</li> <li>・ 食品に適した保存方法を知り，生活に役立てよう。</li> <li>・ 環境に配慮した食品選択について考えよう。</li> </ul> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒に示す到達目標(観点)</p> <p>(B)生鮮食品の鮮度は見分け方や，食 品の品質表示の見方がおおよそ 分かる。</p> <p>食品に適した保存の方法や管理 の方法がおおよそ分かる。</p> <p>地産地消・フードマイレージや 食品容器包装廃棄物と食品購入 との関係が分かる。</p> <p>(A)生鮮食品の鮮度の見分け方，食品</p> </div>
2 生鮮食品の鮮度の見分け方を 調べ，実際の食品で確認する。 (1)牛乳 (2)ほうれん草 (3)卵	生鮮食品と加工食品の違い を知る。 ワーク	

		<p>の品質表示の見方が分かる。 食品に適した保存の方法や管理の方法が分かる。地産地消・フードマイレージや食品容器包装廃棄物を考えた食品購入の仕方が分かる。</p>
<p>3 食品を選ぶとき、見た目だけで判断できないことを把握する。</p> <p>4 見た目だけで分からないことは、品質表示で確認する。</p>	<p>外見上の変化で分かるもの分からないものの区別をする。</p> <p>食品表示のさまざまな情報を記入する。</p> <p>表示マークを確認する。</p> 	<p>食品選択において外見上の変化で判断できない場合、品質表示で確認することを教える。</p> <p>表示の内容は</p> <p>期限表示</p> <p>原材料</p> <p>アレルギーへの対応</p> <p>食品添加物</p> <p>その他（遺伝子組み換え作物の使用、品質保証マーク等）</p> <p>栄養表示</p>
<p>5 消費期限・賞味期限の意味の確認とどのような食品に付いているか考える。</p> <p>6 場の設定</p> <p>(1) 納豆コーナー</p> <p>(2) ベーコンコーナー</p> <p>(3) そばコーナー</p> <p>(4) 福神漬コーナー</p> <p>(5) クイズコーナー</p>	<p>消費期限・賞味期限の内容をまとめる。</p> 	<p>期限表示には消費期限・賞味期限があることを振り返らせ、説明する。</p> <p>場の設定の支援</p> <p>(1) 納豆では国産大豆と外国産大豆（遺伝子組み換えでない）について考えさせる。</p> <p>(2) ベーコンでは肉の色と値段の違いについて考えさせる。</p> <p>(3) そばでは同じメーカーであるが、原材料の重量に着目させ、値段の違いを考えさせる。</p>
<p>(1)～(4)のコーナーにおいて2種類の食品を提示しておき、選択させる。</p> <p>(5)のコーナーでは期限表示に関する設問に答える。</p>		<p>(4) 福神漬では、同じメーカーの商品について、食品添加物の使用の有無や国内産と中国産について考えさせる。</p> <p>(5) クイズコーナーでは期限表示に関する問いについて考えさせる。</p>
<p>7 食品の保存方法を知る。</p>	<p>食品に適した保存方法を確認する。</p>	<p>食生活の変化が食品の保存方法や管理に考慮が必要となることを振り返らせる。</p>
<p>8 地産地消・フードマイレージ</p>	<p>地産地消のメリットを確認</p>	<p>地産地消・フードマイレージ・</p>

<p>日本の食糧自給率と食品の流通, 食品容器包装廃棄物との関係についての食品購入について知る。</p> <p>9 学習のまとめとして実際の食品を使って, 食品選択をし, 自己評価につなげる。</p> <p>10 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>11 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>する。</p> <p>フードマイレージ世界一の理由を確認する。</p>	<p>日本の食糧自給率について説明する。</p> <p>加工食品の簡便さと環境に配慮した食品の選択との関係を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 方法(観察, 品質表示, ワークシート)</p> <p>(B)生鮮食品の鮮度は見分け方や, 食品の品質表示の見方がおおそ分かる。</p> <p>食品に適した保存の方法や管理の方法がおおよそ分かる。</p> <p>地産地消・フードマイレージや食品容器包装廃棄物と食品購入との関係が分かる。</p> <p>(A)生鮮食品の鮮度の見分け方, 食品の品質表示の見方が分かる。</p> <p>食品に適した保存の方法や管理の方法が分かる。</p> <p>地産地消・フードマイレージや食品容器包装廃棄物を考えた食品購入の仕方が分かる。</p> <p style="text-align: right;">(知識・理解)</p> </div> <p>学習の振り返り・ワークシートへの記録の確認をさせ, 次時の学習への意欲を促す。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 授業の分析と考察

これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確にするための評価の工夫(評価場面や評価方法の工夫)

判断基準の設定や到達目標の提示

判断基準の設定を行い, 本時の到達目標を導入時に提示したことは, 教師の指導内容が明確になるとともに, 生徒の学習目的をはっきりさせ学習意欲を高める結果となった。

到達目標を達成するための学習活動の工夫

ア 生鮮食料品の実物提示による確認

牛乳・ほうれん草・卵の実物を提示し, 食品の鮮度について視覚で見分けることができるものと品質表示が必要であることを確認できた。

イ 各自が持参した品質表示による情報の収集

題材に入る前に「授業の準備」として, 各家庭において食品の品質表示が記載されている袋などを2点以上準備した。品質表示を集めてくることで, 授業に対する興味・関心が高まった。

## ウ 食品の模擬選択購入の体験

場面設定で、食品の比較がしやすいように、ポイントを絞って食品の準備をした。食品の選択をグループでゲーム形式で実施したため、楽しく学習活動に取り組み、グループ内での意志決定に結びつけることができた。食品を選択する際、選択する基準として、原材料に使われているものが何かを見る事や、食品添加物ができるだけ少ない物や中国産より国内産のものを優先させていた。また、授業後の生徒の実態(表2)を見ると、価格優先で購入していた生徒が、品質表示やマークに関心を向けられるように変化している事が分かる。

表2 授業後の生徒の実態について (抜粋)

平成20年7月25日(金) 第1学年62人

質問事項	回答	人
購入時に注目する事項 (複数回答)	価格	44
	広告	4
	栄養	29
	安全性	46
	季節のもの	7
	味	27
	容器包装	3
	鮮度	25
	おまけ	1
購入時に表示やマークを確認している	確認している	46
	確認していない	16
茨城の食材を購入している	積極的に購入	6
	できるだけ購入	14
	わからない	38
	購入していない	3

## (5) 授業研究の成果と課題

### ア 成果

判断基準の設定を行い、本時の到達目標を導入時に提示したことは、教師の指導内容が明確になるとともに、生徒の学習目的をはっきりさせ学習意欲を高める結果となった。実物を利用した模擬選択購入等の学習活動の工夫改善を行ったことは、生徒に実感的な理解を促し、到達目標の達成の一助となった。

購入に関する意識は、価格が優先していたが、授業後は安全性や鮮度、栄養に対しても意識を向けることができるようになってきた。また、「地産地消」や「食の安全」に対する意識にも変化がみられるようになってきた。

### イ 課題

場面設定におけるグループでのより効果的な相互評価の工夫

到達目標に対し、場面設定での個々の理解度を評価できるワークシートの工夫

### 3 研究のまとめ

家庭及び技術・家庭科では、研究主題「豊かな学びをはぐくむ授業の創造」に向けて、特に「学習評価の工夫改善」に焦点を当てて研究を進め、県内小学校2校、中学校4校、高等学校2校で授業研究に取り組んだ。

以下、2年間の研究の取り組みから本研究実践についての主なる成果と課題を述べる。

#### 成果

##### (1) 小学校の実践から

- ・学習マップに記入し学んだことを蓄積したことで、児童がこれまでの学習成果を振り返り、次の目標をもち主体的に学習しようとする態度を向上させることができた。
- ・ループリックを児童と教師で考えたことにより評価の観点が明確になった。また、評価に取り入れたことで、児童は到達目標を意識して意欲的に学習に取り組み、判断基準に照らし合わせて学習の成果を評価する力が向上した。
- ・授業中の判断基準を明確にしたことは、個への支援の視点が明確にすることができ、到達目標達成の一助となった。

##### (2) 中学校の実践から

- ・到達目標の提示が難しい関心・意欲・態度と工夫創造の観点において、方法を工夫しキーワードで示したことで、生徒の学習意欲を高めるのに効果的であった。
- ・生徒が自己の課題を学習の途中で見直すことは、その後の学習に反映させることができ、到達目標の達成につながるようになった。
- ・到達目標と具体的なポイントを記載した自己評価カードを活用したことで、生徒は見通しをもち、主体的に取り組み、基礎的・基本的な知識と技術の定着につながった。
- ・到達目標を達成するための教材・教具を工夫・改善し活用したことで、より具体的な活動をすることができ、到達目標を達成する一助となった。
- ・相互評価をしたことで、その後の学習活動への工夫改善が見られた。また、自分を客観的に見る力が磨かれ、自然に自己評価力も向上することが分かった。
- ・自己評価の判断基準を明確にしたことで、生徒はより適性に評価しやすく、教師側も生徒一人一人の到達度を把握する上で効果的であった。

##### (3) 高等学校の実践から

- ・判断基準の設定を行い、本時の到達目標を導入時に提示したことは、教師の指導内容が明確になると共に、生徒の学習目的をはっきりさせ学習意欲を高める結果となった。
- ・実験や実習を取り入れて学習活動の工夫改善を行ったことは、生徒に実感的な理解を促し、到達目標達成の一助となった。
- ・ワークシートや学習ノートを利用して、基礎的な知識の定着状況を確認できたので、次の的確な指導に生かすことができた。

#### 課題

2年間にわたり進めてきた本研究実践を踏まえ、今後は、新学習指導要領の目標に準拠した評価基準の設定及び簡便な評価方法の工夫改善、さらに児童生徒に示す到達目標や判断基準の吟味や提示の仕方の工夫について実践的な研究に取り組んでいきたいと考える。

## 家庭及び技術・家庭 研究関係者一覧

### 1 研究協力員

高萩市立高萩小学校	教諭	大高	美枝子
石岡市立石岡小学校	教諭	吉沼	育子
ひたちなか市立勝田第一中学校	教諭	相田	武夫
下妻市立千代川中学校	教諭	太田	雅彦
つくば市立谷田部東中学校	教諭	横山	良子
筑西市立下館中学校	教諭	須藤	恵美
県立常陸大宮高等学校	教諭	増田	昌子
県立勝田高等学校	教諭	柴田	京子

### 2 茨城県教育研修センター

	所長	中村	一夫
教科教育課	課長	小沼	光一
教科教育課	課長	武井	秀一 (平成19年度)
教科教育課	指導主事	栗原	恵子
企画管理課	指導主事	高橋	秀治
企画管理課	指導主事	磯野	宏人 (平成19年度)